

平成26年度 第17回

記録集

いきいき市民のつどい

いつでも、どこでも、だれとでも支えあう生涯学習
～子育てから終活^{しゅうかつ}まで～

生涯学習のまちづくりを、市民ぐるみで推進するために設置された生涯学習推進本部で企画・運営する「いきいき市民のつどい」。今年度は、岸和田で活動している方々とともに子育て、女性、介護と生涯学習との関わりについてのパネルディスカッションを行い、基調講演では『支えあい 学びあう 暮らしを』をテーマにお話をお聴きします。

【パネルディスカッション】

コーディネーター

大阪市立大学 非常勤講師

^{たけむら} 竹村 ^{やすこ} 安子 さん

パネリスト

〔子育て〕

特定非営利活動法人 ここからKit

代表

^{はせがわ} 長谷川 ^{ひでみ} 秀美 さん

〔女 性〕

岸和田女性会議

代表

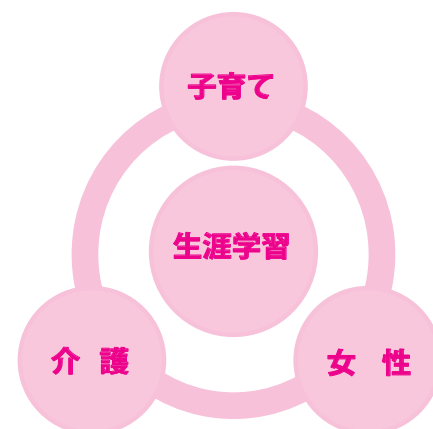
^{かいづか} 貝塚 ^{まちこ} 眞知子 さん

〔介 護〕

岸和田市介護者家族の会「みずの輪」

代表

^{やまもと} 山本 ^{かずみ} 一美 さん



【基調講演】『支えあい 学びあう 暮らしを』

大阪市立大学 非常勤講師 ^{たけむら} 竹村 ^{やすこ} 安子 氏

日時

平成27年 1月24日(土)
午後1時半～4時

会場

産業会館 (別所町3-13-26)
参加費無料

主催： 岸和田市・岸和田市教育委員会 岸和田市生涯学習推進本部

いつでも、どこでも、だれとでも支えあう生涯学習

～子育てから終活まで～

開催要項	1
開会のことば（岸和田市生涯学習推進本部 はただ のりさと 畑田 率達 委員長）	3
主催者あいさつ（岸和田市 し ぎ よしのり 信貴 芳則 市長）	4
第 1 部 パネルディスカッション	5
〔子育て〕	6
長谷川 秀美 さん（特定非営利活動法人 ここから kit 代表）	
〔女 性〕	17
貝塚 眞知子 さん（岸和田女性会議 代表）	
〔介 護〕	25
山本 一美 さん（岸和田市介護者家族の会 みずの輪 代表）	
パネルディスカッションの様子	30
第 2 部 基調講演 「支えあい 学びあう暮らしを」	36
大阪市立大学非常勤講師 竹村 安子 さん	
資 料 編	46
アンケート集計結果	

第 17 回 生涯学習<いきいき市民のつどい>開催要項

<開催趣旨>

生涯学習に関する講演会や活動発表また生涯学習をテーマとした語り合いなどのイベントを開催し、市民の生涯学習に対する関心を高める。また、参加者が生涯学習について考え、ふれあい、講演等を聞くことで新たなネットワークづくりの機会を模索し、情報を提供することで本市の生涯学習活動を一層推進する。

<全体テーマ>

「いつでも、どこでも、だれとでも支えあう生涯学習 ～子育てから終活まで～」

- 1 日 時 平成 27 年 1 月 24 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 00 分
- 2 場 所 市立産業会館 2 階 集会室（別所町 3 丁目 13-26）
- 3 内 容

【第 1 部】パネルディスカッション

《コーディネーター》

大阪市立大学 非常勤講師 竹村 安子 さん

《パネリスト》

〔子育て〕

特定非営利活動法人 ここからKit 代 表 長谷川 秀美 さん

〔女 性〕

岸和田女性会議 代 表 貝塚 眞知子 さん

〔介 護〕

岸和田市介護者家族の会「みずの輪」 代 表 山本 一美 さん

【第 2 部】基 調 講 演 『支えあい 学びあう 暮らしを』

大阪市立大学 非常勤講師 竹村 安子 さん

- 4 申 込 方 法 等 生涯学習推進本部関係団体からの参加及び一般参加

※ 各団体は参加者名簿を 1 月 15 日（木）までに事務局へ提出する。

※ 電話・FAX・電子メール又は窓口のいずれかの方法により、申し込む。

（住所、氏名、電話番号が必要）

なお、保育（1 歳半～就学前児童及び障害児先着 15 名）や要約筆記・手話通訳等の希望者はその旨も申し出る。締め切りは 1 月 15 日（木）。参加費無料。

- 5 申込及び 岸和田市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

問 合 先 岸和田市堺町 1-1（市立公民館内）

電話 423 - 9615～6 FAX 423 - 3011

電子メール syogaig@city.kishiwada.osaka.jp

- 6 主 催 岸和田市生涯学習推進本部・岸和田市・岸和田市教育委員会

7 当日次第

【開 会】 午後1時30分

- 1 開会のことば 岸和田市生涯学習推進本部 畑田 率達 委員長
- 2 主催者あいさつ 岸和田市 信貴 芳則 市長

【第1部】 午後1時40分～3時5分

パネルディスカッション

- | | |
|-------|-------------------|
| 〔子育て〕 | 特定非営利活動法人 ここからKit |
| 〔女 性〕 | 岸和田女性会議 |
| 〔介 護〕 | 岸和田市介護者家族の会「みずの輪」 |

《 休憩 10 分 》

【第2部】 午後3時15分～4時

- ◇基 調 講 演 『支えあい 学びあう 暮らしを』
大阪市立大学 非常勤講師 竹村 安子 さん

竹村 安子さん

【プロフィール】昭和23年 大阪市生まれ。

昭和45年より大阪市社会福祉協議会に勤め、小地域社会福祉活動やふれあい型高齢者の食事サービスなどの地域福祉活動や、ボランティア活動・NPO活動の推進などの業務を担当していた。現在、港区長アドバイザー、大阪宅老所グループハウス連絡会世話人。平成25年4月 大阪市福島区にてコミュニティサロン「えび庵」を立ち上げ主宰。

【主な著書】

『福祉ボランティア』（共著 朱鷺書房）

『福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO』（共著 中央法規）

『小地域福祉活動の新時代 大阪市・今川地域からの発信』（共著 全国コミュニティライフサポートセンター）ほか

皆さまこんにちは、今日は、昨日とうって変わって、少し肌寒いですが、好天に恵まりました。最後までご参加よろしく願いいたします。

岸和田市生涯学習推進本部委員長 畑田 率達でございます。

「いきいき市民のつどい」は、今回で第 17 回目を迎えます。ここ数年、活動発表と分散会で、話し合いをしていただきましたが、昨年よりパネルディスカッション形式で、さまざまに活動いただいておりますパネリストの方々と、会場の皆さまとのやり取りが大変好評でしたので、今回も、パネルディスカッションとその後、講演会をお聴きすることになりました。

今年は、阪神淡路大震災から 20 年経ちます。震災以後、地域社会のあらゆる課題が浮き彫りになりました。復興に向けて、その課題に向かった時、なにより“人と人とのつながり”が大切だと感じたことと思います。災害に強いまちづくり、防災学習、復興に向けた取り組み、そして心の復興、そのためには“人と人とのつながり”がいかに大切かを気づかれたかと思います。

まちづくりは人づくりです。今回のテーマは「いつでも、どこでも、だれとでも支えあう生涯学習～子育てから終活まで～」をテーマに子育て、女性、介護とそれぞれパネリストの方の話をお聴きし、そして、パネルディスカッションのコーディネーターもお願いしております竹村安子先生には「支えあい 学びあう 暮らしを」というテーマでご講演いただきます。

生涯学習が目指すものは「命と尊厳」を大切にする生き方を私たち一人ひとりがめざし、実現していくことだと思います。そして、そのことは他者の「命と尊厳」を大切にすることなくして実現しません。一人では学び得ることはできないことだと思います。

「いつでも、どこでも、だれとでも学び、支えあう生涯学習」
学びが地域をつくり、人をつくる。

この“市民のつどい”で学んだことが地域の暮らしの中の
気づきになることを願っております。

簡単ではございますが、開会のことばとさせていただきます。
皆さまどうか、最後まで、よろしく願いいたします。



生涯学習推進本部
畑田 率達 委員長 開会のことば

皆さま、こんにちは。市長の信貴でございます。

本日は第17回「いきいき市民のつどい」がこのように盛大に開催されまして、心よりお喜び、また多くの方々にお越しいただき感謝申し上げます。

この「いきいき市民のつどい」は、平成10年から、その当時「年輪のつどい」として開催してから、今回で第17回目の開催となります。この「いきいき市民のつどい」は、行政のみならず市民の各界、階層の方々から構成された岸和田市生涯学習推進本部という組織で、企画・運営をしていただき、毎年開催しております。

本市が掲げる三世代が支えあうまちづくり、このテーマにぴったりの本日のテーマ「いつでも、どこでも、だれとでも支えあう生涯学習」でございます。また生涯学習活動につきましては、さまざまな課題が山積いたしております。そのさまざまな課題を解決していくためには、情報の共有・生涯学習の普及・その時々、その課題に応じたテーマの学習が非常に重要でかつ必要であると考えております。本日のご講演を予定しております竹村先生の『支えあい 学びあう暮らしを』は、誠に時機を得たテーマであると心より期待をしております。本日のつどいが皆さまにとって実り多いものとなるかと思います。

結びに当たりまして、生涯学習推進本部委員をはじめ、開催のためにご苦勞をいただきました関係者の皆さまに感謝を申し上げますとともに、皆さま方の今後ますますのご活躍とご多幸をお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。



主催者 信貴芳則市長のあいさつ

第1部

ーパネルディスカッションー



《パネリスト紹介》

〔子育て〕

特定非営利活動法人 ここからKit 代 表 長谷川 秀美 さん

岸和田市家庭教育学級(たんぽぽ・いしがき等)・自主学习グループ(木馬・おーぷんはあと)を経て平成 20 年より社会教育指導員として市立公民館へ。

その後、地区公民館長を経て、平成 26 年 9 月 NPO 法人を立ち上げ「地域で子どもの笑顔が見えるまち」を合言葉に活動中

子育て支援の NPO 法人ここからKit

子どもが まんなか これからのコミュニティへ

ここからKit って？

ここ・・・此处・個々の

から・・・color (十人十色)

Kit・・・Keep in touch

(ずっと触れ合っていよう、つながっていようという意味)

人と人との出会いや、お互いを認め合いながら、つながりの大切さを伝えたい！ そんな想いをこめて名づけました。



私たちのまちが「子育てしやすいまち」になるようにと、子育てをしてきた当事者だからこそ同じ目線で見てきた支援のあり方や、ひとりではできないことを仲間とともに企画し、仲間づくりの大切さを実感してきました。

これまで、いろんな立場で、親子の安心できる居場所づくり、身近で役立つ子育て情報の提供、親が成長するための学習の機会の実施など、当事者の視点で子育て家庭のニーズに沿った支援を行うと共に、当事者の小さな声を行政に届けることを実践してきました。

そんな中、今、本当に何が必要なのか…と現状を見ながら考えていきついたことがカタチとしてうまれたのが、ここからKit です。いつでも誰もが気軽に、ふら～っと立ち寄れて、そこにいる誰かと、ちょっとした会話ができ、自由に過ごせる常設の居場所を開設しました。

私たちは「地域で子どもの笑顔が見えるまち」を合言葉に、他人事としてではなく、子どもを地域の財産として地域全体で支えて、子どもたちが、すこやかに地域の中で育まれる地域ぐるみの子育て。そして、親にとっても子どもたちにとっても「助けて！」の SOS！が言える関係づくり、場づくりが必要だと強く感じます。

そして、子育てコンシェルジュとして応援していきたいと思っています。子育て情報を探すのにインターネットを使っても情報が多すぎて見つけられない… 身近な悩みや相談が気軽に話せる場です。顔と顔が見える関係づくりも大事にしたいと思います。

あそこにあの人がいるから行ってみよう、聞いてみようなど…

そして、専門機関との連携も広げていけたらと思います。

行政による様々な子育て支援が取り組まれている中、行政の役割、市民の役割があることを認識し、私たちは NPO 法人ならではの柔軟で実効性の高い子育て、子育て支援事業をしていきたいと考えています。

大好きな方の言葉です。

「人と人が繋がれば、
足りないところを足し合って、
理解し合って、なんでも出来る」

この場がそんな出会いのつながりの場になればと思います。

今日の出会いに感謝します。

子育て 特定非営利活動法人 ここから Kit 代表 長谷川 秀美 さん

NPO 法人ここから Kit 代表の長谷川秀美です。本日は、テーマ「子育て」ということで、現在、活動している私達の団体の話をさせていただきます。はじめに NPO 法人を立ち上げるまでの経緯からお話させていただきます。この「いきいき市民のつどい」も、何度か参加し、司会をさせていただいたこともあります。今の私が、この場でお話ができるのも、公民館という学びの場があったからこそだと思います。

17 年前、泉佐野市から岸和田市に引っ越ししてきました。当時、子どもは 3 歳。泉佐野市の公民館では人形劇クラブに入っていました。当時は 6 カ月の息子と一緒に保育園へ行き、保育士さんに子どもを抱っこしていただき、私は人形劇を演じていました。そんな子どもと一緒にできることは、当時の私にとってはストレス発散の場でもありました。仲間にも支えられ、子育てに恵まれていました。そんな時、岸和田への引っ越しが決まり、泉佐野の公民館の職員さんから、「岸和田はいいよ」という言葉にちょっと期待をしながら引っ越ししてきました。

公民館活動とのであい

早速、公民館で活動している人形劇クラブへ問い合わせてみると、赤ちゃん連れの人はいないからという返事がありました。仕方なく、何か参加できる場所はないかと広報などを見ていましたが、あまりピンとくるものもありませんでした。他市では子育てサークルなどがあり、子どもを持つ親の場がたくさんありました。ちょうどこの頃、私の父が末期ガンとわかり、精神的にも疲れがピークになっていました。夫は、子育てにはとても積極的に関わってくれていましたが、やはり日常的に 24 時間子どもと一緒に、そして父の介護、とてもしんどい時期でしたね。

その時、子どもを通しての付き合いのあるママさんからは、「いつでも預けていってね。」とあたたかい言葉をいただいていた。でも、その当時の私は、「お願い」の一言が言えなくて、遠慮するようなお付き合いしかできていませんでした。そうしているうちに、父が亡くなりバタバタの日々から、少しゆっくりできるようになりました。

自主学習グループ「木馬」からたんぽぽ家庭教育学級

そんな時、目に入ったのが公民館で活動している自主学習グループ「木馬」の公開講座のチラシでした。大きな見出しで「がんばれ、子育てママ」というタイトルに惹かれ連絡先へ電話をかけました。そこからが公民館活動の始まりです。その時の自主学習グループ「木馬」のグループ生の方の優しい対応があり、参加したいという気持ちをもたせてくれたのが大きかったと思います。そこから、「幼児をもつ親の学級」たんぽぽ家庭教育学級を知りました。みなさん家庭教育学級ってご存知ですか？

家庭教育学級って、現在ホームページに書かれていたものを抜粋させていただきます。

「ちょっと固いネーミングですが、子育て中の「？」を仲間とともに学び、集い、語り合う場です。子ども、家庭、地域、環境など、家庭に関わる様々な課題をともに学び、考えることを通して保護者自身の成長と家庭教育の充実を支援するために教育委員会が開設しています。」(平成 27 年 1 月現在)

自主運営、自主保育といわれると難しく感じられましたが、はじめは、親子で楽しむ場というイメージで、次第に私自身が毎回、参加するのが楽しくなってきました。その中で、さまざまなお母さんたちとの交流も刺激となり、学習会では興味のあるお話など講師を招いて学ぶこともでき充実していました。家以外の自分の居場所というのができたのがこの頃です。

家庭教育学級では、私達、親が学んで、保育室では子どもたちがボランティアの方々に遊んでもらっていました。また、クリスマス会では地域の南町に住んでいる公民館利用者のおじいちゃんにサンタクロースになっていただき、子ども達はとても喜んでいました。この中に、私の娘もいました。現在は 12 歳、今年中学生になります。こんなふうに子ども達の成長を見ながら、親も学習できる場がありました。

子育てサークル

そしてその後、乳幼児をもつ親の居場所として、子育てサークルを立ち上げました。家庭教育学級は、当時 2 歳からの保育でした。やはり小さな子どもを持つお母さんたちの場所が必要ではないかということで、たんぼぼ家庭教育学級の何人かで子育てサークルを立ち上げました。始めは、サポートする側として立ち上げたのですが、まさかの三人目で、サポートされる側となりました。しかし、その三人目ができたことで子育て中のママたちと同じ目線になることで見えてくることもあり子育てにも広がりがありました。子育てサークルの出会いと交流が、また新たな展開へと続くことになっていきました。子育てサークルというのはママたちが自主的に活動しているサークルです。その頃から、どんどん増えていきました。市立公民館で子育てサークル活動をしているお母さんや子どもたちのコミュニケーションづくりの場として平成 15 年に「きしわだ子育てネットワーク」を立ち上げました。

自主学習グループ「おーぷんはあと」

そして 2 年後の平成 17 年、岸和田市の委託を受け自主学習グループ「おーぷんはあと」として活動をはじめました。

自主学習グループは、「自ら興味のあることをテーマに選択し、学習したい人が集まっています。みんなで学習する楽しさ、あなたも味わってみませんか？参加者自身が年間を通じて学習プログラムを立て、一つのテーマについて、深く学んでいきます。」このように、ホームページにも載っています。(平成 27 年 1 月現在)

そして、私達自主学习グループ「おーぷんはあと」は、子育て真っ最中の親が集まり、名前のとおり、子育て中のお母さんたちがワイワイガヤガヤにぎやかに集まれる場を提案し、支えたり、支え合ったり、相互支援グループとしてこれから長く続く子育てをみんなで考え、学んでいく場づくりをめざして活動していました。自主学习グループ「おーぷんはあと」では、子育てサークルのバックアップ、乳児から思春期の子どもたちを持つお母さんたちの勉強会や座談会の企画をしました。自分たちも当事者だったので、子育てまっただ中のお母さんたちをもっと元気に、自分たちも元気に、一人ぼっちの子育てから、みんなで一緒に子育てしませんかというメッセージを送っていました。でも、やはり乳幼児を抱えている当事者が活動する場合には「自分の子どもの面倒をみる方が先でしょう！」とか「もう少し落ち着いてから、始めればいいのに！」と思われる方々もいらっしゃると思います。でも、果たしてそうでしょうか。今、大変な時に始めなくていつ始めるのだろうか。多くの人は、子どもが、幼稚園や小学校に入って、少し楽になると活動をやめてしまうのです。今、大変だからこそパワーは出るし、当事者の気持ちがわかると思うのです。私たちは、ずっと「当事者の目線でものを考えたい」と思い活動していました。

子育てネットワークでのひろがり

その時にも、いろいろと協力していただいた市立公民館の方々、そしてこの「きしわだ子育てネットワーク」の開催の時、地域子育て支援センター光陽保育園さんが、鈴やタンバリンやマラカス、小太鼓など、たくさんの楽器を当日持ってきて、担当のサークルのお母さんたちに楽器の持ち方の指導までしていただきました。こうして、さまざまな地域のファミリーサポートセンターのアドバイザーさんの方にもパネルシアターにも参加していただき、市立公民館の職員さんのサンタさんなど、大勢の方々に、ご協力をいただいてやってまいりました。そうすることで、「きしわだ子育てネットワーク」を立ち上げました。

社会教育指導員から地区館長へ

その後、公民館から声がかかり社会教育指導員という立場をいただきました。そこで、自分が利用者側から支援する側の立場になりました。ここからも、いろいろな角度から見えるものがありました。子育て支援のあり方などなど、このままでいいのかなぁと思いながら、何年か過ごしました。そして、社会教育指導員から地域の地区公民館長となり、やはり地域にはいったことで、またひとつ地域の課題が、本当にさまざまな場面から見えてきました。その中で、私の諸事情もあり公民館長を辞めることになりました。

出会いと特定非営利活動法人ここから Kit

その前後くらいに、ある一人のお父さんとの出会いがありました。その方はファザーリング・ジャパンという全国展開で「育メン」（子育てを母さんと一緒にし、父親を楽しむお父さんたち）を増やす活動をされていました。そのお父さんから、きしわだプレイパーク（冒険

遊び場)と一緒にしないかとお声がけをいただき、その時に特定非営利特定法人を立ち上げないかという話が生まれてきました。

そこで「私たちのまちが子育てしやすいまちになるように」と、子育てをしてきた当事者だからこそ、同じ目線で見えてきた支援のあり方やひとりではできないことを仲間とともに企画し、仲間づくりの大切さを実感してきました。これまで、いろいろな立場で、親子で安心できる居場所づくり、身近で役立つ子育て情報の提供、親が成長するための学習の機会や実施など、当事者の視点で、子育て家庭のニーズに沿った支援を行うとともに、当事者の小さな声を行政に届けることを実践してきました。

そんな中、今、本当に何が必要なのかと考えていきついたカタチとして生まれたのが「ここから Kit」です。

「ここから Kit」というのは、ここは、此处・個々のという意味です。

からは、color(カラー)、十人十色、Kit というのは、Keep in touch(ずっと触れ合っている、繋がっているという意味)です。

人と人との出会いや、お互いを認め合いながら、つながりの大切さを伝えたい。そんな想いを込めて名づけました。

そして平成 26 年 5 月にオープンし、子どもの居場所としての役割に加え子育てに関する情報提供など、いろいろ行っています。産前産後のサポート、居場所づくり、子育てコミュニティースペース。そして、今後、一時預りもやっていきたいなと思っています。

子どもが まんなか これからのコミュニティへ

子どもには3つの間「時間」「空間」「仲間」が必要。これは大人も同じです。思いついた時に、ふらっと立ち寄れて、そこにいる誰かとちょっとした会話ができる安心感。子育てで行き詰ったり、疲れたりした時ホッとできる「居場所づくり」を目指しています。「ふらっと」には、いつでも、だれでも、ありのままを受け止めて同じ立場に立って考える「フラット(=垣根のない)」な交流もという意味も込めています。「親子ひろばここカフェ」は5月に立ち上げて乳幼児を持つお母さんたちが集まってきてくれました。親子ひろばは、主に0、1、2、3歳児と親子のためのもうひとつの家ということで設定しています。身近に、児童館のような乳幼児がその場で集える、気軽に行くことができる施設がなく「そういう場所があったらいいなあ」という声をよく耳にしました。私もやはり、常設でこういう場があればとずっと思っていました。そういう話をしているうちに、賛同者が現れてスタッフが集まり開設できました。いつでも、誰でも、気軽に立ち寄り、自由にすごせる常設の居場所です。毎月、お母さんたちが集まってオムツ替えやお昼寝スペースはもちろん、ミルクをつくったりお弁当を食べることもできます。午後のひと時、お茶を飲みながら子育てについて話を聞いてくれるおしゃべり仲間やスタッフもいます。

ママのやってみたい!! を応援します

そして、ある時この集まりに来ていたお母さんから「私、ベビーマッサージの資格をとったので、ここで練習させてくださいませんか」という声がでました。そして、ママの“やってみたい”を応援しようと、お母さんたちを集めて、ここでベビーマッサージをやってもらいました。そして、その当事者の親子で来ているお母さんも、自分も元保育士だったので絵本をみなさんの前で読んでみたいということでママサポーター賛助会員になっていただいて、ママサポーターという役をやっていただいています。そして、6月親子ひろばではお話をしました。地域の図書館ボランティア「だっこ」のスタッフの方々、今回、司会をしていただいている鳥羽敦子さんも「だっこ」でわらべ歌、親子のふれあい遊びなどもやっていただきました。そして、絵本の紹介など、お母さん達は一生懸命に聞き入っていました。

年間行事もみんなで楽しく

これは7月七夕飾りです。子どもさんそっちのけで、必死に作っている姿が、私達にはおかしくって。一生懸命に作っているのでも「こういう工作はあまり家ではしないのですか」と聞いたら「こんなのは久しぶりです」と話していました。

そして、9月の岸和田祭りで「赤ちゃんすてーしょん」を開設しました。岸和田祭りでは、人がいっぱい来て、大人のおトイレなどはあるけれども、赤ちゃんにゆっくり授乳出来る場所、そしてオシメを替える場所がないなと思ひまして、駅前の野田町の旧れもん館、ここからも本当に近いですが、そこをお借りして「ころころはうす」の事務局と活動場所にしています。そこで、「赤ちゃんすてーしょん」というのを開設しました。もう、その時は、観光課の方々にチラシを配布していただいたり、市役所のフェイスブックにも載せていただきました。そして、地域のワンワン文庫のお話会もやっていただきました。

お母さんたちのリフレッシュタイム

そしてお母さん達もやはり、リフレッシュしたいなということで、11月には手作りクリスマスケーキを作りました。これは、れもん館さんのショールームを特別にお借りして開催しました。とても楽しそうです。この時、お一人のお父さんがはじめて来てくださいました。いろいろお話を聞いていて、子ども生まれたからということで「僕も友達ほしいねん」とダイレクトに言われたので、うちの代表、桜井さんというのですけれども、“ママ友”ならぬ“パパ友”に紹介しました。このように、いろいろな方々が来て、一緒に過ごすのは大事なことだと思います。そしてクリスマス会、これも地域の方に「ゆるゆるストレッチ」というのをやっていただき、お母さん達は癒されていました。とても楽しそうにしています。

もうひとつの実家「親子ひろば」

新年は1月6日にオープンしたのですが、みなさん集まってきてくれました。やはり冬休み中、家の中で悶々としていて「しんどい〜」という感じで、開けた途端、集まって

くれるのはとても嬉しいことでした。そして、1月生まれのお誕生日会、月1回、お楽しみ会ということでお誕生日会もしています。2月に向けて「おにのぱんつ」かわいいオニさんたちがいっぱいです。そして、その後は、みんなで一緒に離乳食のご飯、一緒に昼食をとります。こんな感じでワチャワチャいつもやっています。そして、珍しくこの日は、みなでお昼寝をしてくれました。その時は、お母さんたちは横でゆっくりコーヒーを飲みながら、いろんな家での事など、お姑さん問題とかありますよね、そういう話をしていました。

「地域で子どもの笑顔がみえるまち」を合言葉に

「ここから Kit」は学習会もしています。1月11日「子ども子育て支援制度」ということで、学習会をしました。その時は、社会福祉協議会と共催でさせていただきました。そして、いずみ市民生協さんにも協賛していただいてコープママに保育のお手伝いをさせていただきました。この時の講師は大阪教育大学の小崎恭弘先生です。とても、面白くてあっという間に時間が過ぎていきました。やはりお母さんたちの「わからない」を私たちも一緒に学習していこうということで「子ども子育て支援制度」の学習会をさせていただきました。

地域で親子の成長を見守りたいということで「ここから Kit」という場を設けました。みんなで一緒に子育てというのは、やはり難しいのですけれども、こういう場があればみんなで集まってできると思います。岸和田で安心して、出産できて、子育てできる環境を地域ぐるみで考えていきたいと思います。私たちは、「地域で子どもの笑顔がみえるまち」を合言葉に、他人事としてではなく、子どもを地域の財産として地域全体で支えて、子どもたちがすこやかに地域の中で育まれる地域ぐるみの子育て、そして、親にとっても、子どもたちにとっても「助けて！」の SOS！が言える関係づくり、場づくりが必要だと強く感じます。

そして、子育てコンシェルジュとしても皆さんを応援していきたいと思っています。子育て情報を探す、インターネットを使っても情報が多すぎて見つけられない…身近な悩みや相談が気軽に話せる場です。顔と顔がみえる関係づくりも大事にしたいと思います。あそこにあの人がいるからいってみよう、聞いてみようなど…そしてやはり専門機関との連携も広めていけたらいいかなと思います。行政によるさまざまな子育て支援が取り組まれている中、行政の役割、市民の役割があることを認識し、私達は、NPO 法人ならではの柔軟で実効性の高い子育て、子育て支援事業をしていきたいと考えています。

大好きな方の言葉です。「人と人がつながれば、足りないところを足し合って、理解し合って、なんでも出来る」この場を、そんな出会いのつながりの場になればと思います。今日の出会いに感謝したいと思います。ありがとうございます。

「地域で子どもの 笑顔がみえるまち」

～子どもが まんなか これからのコミュニティへ～



子育て支援のNPO 法人
ここからKit

家庭教育学級

家庭教育学級って・・・

- ・ちょっと固いネーミングですが子育て中の「？」を仲間とともに学び、集い、語り合う場です。
- ・子ども・家庭・地域・環境など、家庭に関わる様々な課題とともに学び、考えることを通して保護者自身の成長と家庭教育の充実に支援するために教育委員会が開設しています。

たんぽぽでの学習会やクリスマス会



おーぷんはあと



自主学習グループ

自ら興味のあることをテーマ選択し、
学習したい人が集まっています。
みんなで学習する楽しさ、あなたも味わって
みませんか？参加者自身が年間を通じて
学習プログラムを立て、一つのテーマに
ついて深く学んでいきます。

きしわだっこネットワーク





5月親子ひろば



6月親子ひろば お話会





10月地域の文庫さんのお話会



11月手作りdeケーキ



パパもいっしょに♪



12月クリスマス会



1月 新年初めての親子ひろば



1月うまれのおたんじょうび会



絵本「おにのぼんつ」可愛いおにさんたち



もうすぐお兄ちゃん
地域で親子の成長を見守ります。



子ども子育て新制度学習会



講師：小崎 恭弘先生 大阪教育大学 准教授
NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西 顧問

《パネリスト紹介》

〔女 性〕

岸和田女性会議 代 表 貝塚 眞知子 さん

1988年 いしがき家庭教育学級に参加

1994年 自主学習グループ「アングル」開設

1995年 学級・グループ連絡会から世話人として女性会議に参加

2005年 女性会議代表世話人

2012年 「アングル」女性センター登録グループに

◇岸和田女性会議

すべての人が思想信条、その他あらゆる立場を越え結び合い、人権を守り、
平和で安全な男女平等参画社会の実現をめざして活動を展開しています。

◇女性会議設立までの経緯

結成まで

1975 年 国連主催第 1 回世界女性会議

1977 年 国内行動計画策定

1980 年 大阪府行動計画策定

「婦人問題アドバイザー講座」6 年間開催

岸和田からも毎年受講

1985 年 大阪府下各市町村婦人行政の現状の調査

「婦人問題アドバイザー講座」と「わだちの会」(岸和田市学級・グループ連絡会 OB)

学級・グループ連絡会の市長懇談会において女性政策室の設置・女性政策推進体制・
推進委員会の設置を要望

1986 年 社会教育課に女性問題担当窓口設置 主査 1 名配置

1987 年 6 月 市長公室自治振興課に女性問題担当窓口を移動 担当係と他 1 名配置

啓発事業「きしわだ女性問題を語る 100 人のつどい」開催 1 年間 108 名参加

1988 年 12 月 3 日「岸和田女性会議」結成

1989 年 女性センター完成

女 性 岸和田女性会議 代表 貝塚 眞知子 さん

岸和田女性会議の代表をしている貝塚です。よろしくお願いします。個人の事を中心ということなので、まず私自身の話をさせていただきます。私は大阪市生まれで、結婚して1976年に岸和田に住み、'81年、'83年、'85年と3人の子どもを産みました。

いしがき家庭教育学級 自主学習グループ「アングル」

そして下の子が2つになった時に、たんぼぼ家庭教育に入っていた友人から「講演会があるから、面白いから行ってみたい？」と誘われたのが岸和田市教育委員会と学級・グループ連絡会が中心となって開催していた「市民公開講座」、講師が毎日新聞「おんなの新聞」編集長の増田れい子さんの「いま女を生きるとは」という講演会でした。子どもができて、育児に専念していたので、そういう場に出るのは久しぶりでした。その時に、増田れい子さんのお話も素晴らしかったのですが、女性会議の先輩の司会が「わっ、なんて上手なんだろう」と思いました。後で、「あの方はプロなの？」と聞いたら「そんなことはないよ。一緒に学んでいる仲間よ」と言われて驚きました。

そして、しばらくたって、長男が小学校に入学し、学校から「いしがき家庭教育学級」のチラシをもらってきました。「これって、何？」「お母さんが学ぶところ」。下の子も満2歳になり、手もかからなくなっていたのと「保育あります」と書いてあるのに惹かれて入りました。それから、その中で、保育児を連れていたから保育委員に。「あなた委員長もしなさいよ」となり、岸和田市学級・グループ連絡会の代表委員会に関わっていくようになります。その中で、家庭教育学級交流委員会の仲間で1994年に、自主学習グループ「アングル」をつくりました。先ほど、自主学習グループの説明もしていただいています。そこでは情報、主にメディアリテラシーについて学習していました。ただ、3年前に、自主学習グループとしては人数不足ということもあり、今は女性センターの登録グループとして学習を続けています。

岸和田市学級・グループ連絡会から岸和田女性会議へ

その学級・グループ連絡会の代表委員会の中で「女性会議の役員会へ代表して行ってほしい」ということで、女性会議に関わります。私自身、学生の頃から「女性問題」というのに興味があり「学級・グループ連絡会から行くなれば良いチャンスだ」と出させていただきました。そのまま個人会員にもなり、役員になり、事務局にも関わり代表をして今年で10年目です。そこでは、私がいつも思っていたことが語られていました。

「女って、こんな時に、損しているね」

「それって、当たり前？当たり前じゃないよね？女も男も半々いるのだから」。

私が就職するときは、男女雇用機会均等法はありませんでした。オイルショックの直後で、女性の就職先はほとんどない時代でした。大学は出たけれど、女性の就職先はないという時代を過ごし「なんで男だけ!？」と思ってきた世代です。だから、女性会議に参加し学習でき

て「そうや、やっぱりそうや！」と思うことが、たくさんたくさんありました。

学習は今でも続いています。そして、少しニュアンスがちがうのではないかと思いますのですが、少子化になり、働く年代が少なくなったということもあって、今、安倍総理も女性の活躍（最初、活用と言われてカチンときました）と言われています。女性も出ていかないと、世の中が、まわらなくなってきたところもあるのでしょうかけれども、私たちの世代よりも女性が出ていきやすい世になってきたなと感じています。とは言っても、まだまだ誇張されていて、男女平等といわれているけれども、なかなかそうはなっていないと思うことがあります。そんなことをいろいろお伝えしていきたいと思っています。

男女平等参画社会の実現をめざして

そこで、次に「岸和田女性会議」のことをお話しさせていただきます。資料の中に、「岸和田女性会議は、すべての人が思想信条、その他あらゆる立場を越え結び合い、人権を守り、平和で安全な男女平等参画社会の実現をめざして活動を展開しています。」とあります。

「すべての人」なのです。最初、「女性」となっていました。だけど、女性だけの人権を守らないとではなく男性の人権も守らないと。では男女共に？！でも、今は、男女というくくりだけでは、くくれない人達が結構おられます。弱者である女性がそういう弱者を区別してはいけなと思います。だから、女性会議のこの文言は、「すべての人」としました。女性の問題という視点で考えていることが多いのは事実ですが、このところでは「すべての人」としています。

「きしわだ女性問題を語る 100人のつどい

岸和田女性会議の結成までを、世の中の流れと平行して簡単に書かせてもらいました。1975年に、国連主催の第1回「世界女性会議」が開かれます。私は、学生だったので開かれたということだけは知っていました。1977年、国内の行動計画というのが策定され、この年に岸和田では、先ほどお話しした「岸和田市学級・グループ連絡会」が結成されています。1980年に、大阪府が行動計画を策定し「婦人問題アドバイザー講座」が6年間、開催されます。そこへ我々の先輩が、学級・グループ連絡会で、女性問題を学んでいた人やその仲間が何人も、毎年、受講されたそうです。

そして、「岸和田でも女性問題のことをしっかりやらないといけない。それでは大阪府下の各市町村は、どうなっているか調査しよう」ということで、婦人問題アドバイザー講座を受講した人と、学級・グループ連会、そして学級・グループ連絡会代表委員会のOBの方たちと「わだちの会」というのを結成し調査して、学級・グループ連絡会の市長懇談会において「女性政策をやってほしい」「政策室を設置してほしい」「政策を推進する体制をつくってください」ということをお願いしたそうです。その結果市は1986年に、社会教育課に女性問題担当窓口を設置して、主査を配置。そして1987年6月に、市長公室自治振興課に、窓口として担当係長と他1名が配置されました。

そして、啓発事業として「きしわだ女性問題を語る 100 人のつどい」がこの年開催されました。これは、108 名の参加があり活動は 1 年間続けられたそうです。

その中から「このまま別れたらだめだ。やはり何か会をつくろう」ということで 1988 年に、「岸和田女性会議」が結成されました。しかし活動場所がありませんでした。

当時、まだ大阪府勤労婦人会館が中央公園の前にあり、そこを府が手放す事になっていたのを岸和田で是非ということで、岸和田女性センターが完成しました。現在女性センターでは、男女問わず、さまざまな教室、グループが活動しています。

こんな部会があります

□□□福祉部会

そして女性会議の活動そのものなのですが、ピンクのリーフレットが入っています。開けたところに、先ほどの「すべての人が」と入っています。その横に、部会の紹介があります。まず福祉部会、岸和田市の介護の問題についていろいろ調査したり、学習したり見学に行ったりしています。

□□□ワーク部会

隣のワーク部会は、わくわく働ける社会をめざし働く環境向上のための学習・調査などを行っています。岸和田市全体の働く女性のアンケートをとって冊子を作りました。すごい資料になりました。意欲的にがんばっている部会です。

□□□お針子サロン

その下のお針子サロンというのは、古布、主に和服の生地からさまざまな作品をつくり、つくる楽しさ・喜びを共感しあい、古布のすばらしさを伝えています。そこで女性の課題の話をしたり、学んでいこうというグループです。この部会は、すごく人気があって他市からも参加したいと順番待ちの状態です。

□□□女性学サークル

その右側、女性学サークル、これは身近にあるあらゆる“性に対する問題・人権の問題”を考え、女性学講座の企画運営なども考えるサークルです。ここで、先ほども出ましたトランスジェンダーの事なども学びました。私も、ここに所属していたおかげで、男や女だけではない、世の中にはさまざまな人がいるということを学ばせてもらったと思っています。

□□□悠遊・UBA ステーション

その下、左側、悠遊・UBA ステーションと変わった名前ですが、これからの人生を安心して暮らしていくために、合同墓・遺言など話し合いながら実現をめざしています。

今話題のテーマ「終活」の学習もしています。そして今どこの市でも、お墓の土地がなくなっている、またお墓そのものがある、後を継ぐ人がいないなどのお墓の課題がでてきて、岸和田でも個人で入れるお墓、共同墓を作りたいと長年要望しています。去年には予算がついて、少し調査しようということになったものの、先に進んでいないのが現状です。やはりこれからの時代、絶対必要なものだと思いますので、これを進めていきたいと頑張っています。

□□□サロン・ドゥ・GOMI

その横のサロン・ドゥ・GOMI は、ゴミ問題とか環境問題とか考えており、中央公園での市民フェスティバルの「ゴミ 0 作戦」に長年参加していました。この部会を通じて、リサイクルなどがかなり広まってきたのではないかなと思っています。今は、ペットボトルのキャップを集め換金することによってワクチンを送ろうというエコキャップ運動に参加しています。世界中でワクチンが打てなくて、生命を亡くしていく子どもたちが多く、身近なもので役立っていくというのが大切で、この運動を続けています。また市の環境部と毎年、懇談会をもって話し合っています。30 リットルのゴミ袋もようやくできることになりました。

こんなことをしています

I. 女性問題にかかわる調査・研究・活動

女性会議全体としても、女性問題にかかわる調査・研究・活動をしています。働く女性のことを考える中で、女性が働くためには、保育・学童保育が大事で、子どもの居場所について調べたり、学習しています。

II. 男女平等参画社会実現のための事業

ふたつ目は、男女平等参画社会実現のための事業をとして、講演会・シンポジウム・研修会などを企画開催します。4月11日には「女と男とでフィフティ&フィフティ～あらゆる決定の場にもっと女性を～」という研修会を行います。女性議員がすごく少ないのをご存知ですか？岸和田の市議会議員選挙も4月に行われますが、今26名中女性議員は3名です。最低30パーセント8名くらいは欲しいのですが、今度の改選でもう少し女性が出てくれるとうれしいなと思っています。

かしましフェスティバル（12月）、他市との交流

それから、交流会等の開催、かしましフェスティバル、これはお祭りですが、写真をもてらおうと思って持ってきました。かしましフェスティバルというのは、毎年12月の第2日曜日に開催しています。会員にいろいろなお店を出してもらい、そこでみなさん買い物をします。



かしまし文化祭として、歌を歌ってもらったり、和太鼓をたたってもらったり。今年は、子ども落語でした。小学校4年生と2年生の子で、すごく上手でよくあれだけ覚えらるなと感心しました。



どなたでも参加できますので12月の第2日曜日「かしましフェスティバル」に来てくださいね。お待ちしております。

また会員の中学校区別交流会も行っています。またさまざまな施設、他市の女性センター・男女参画センターなどの見学に行きます。昨年は、田尻町の町長さんが泉州で唯一の女性で、お会いしに行きました。

Ⅲ. 行政などへの参画と提言

次に行政などへの参画と提言ということで、市長・行政・市議会議員との懇談会、勉強会も行っていますし、審議会にも多数参画しています。

「女性かいぎ」という広報紙が資料の中にありますので見てください。その一面のトップに市議会議員との勉強会の記事を書いています。議員さんには、こういう勉強会をまたやりたいねとおっしゃっていただき、また取組みたいと考えています。市長との懇談会も2月に控えています。いろいろな問題を市長さんと話し合えて、女性政策を進めていけたらと思います。

岸和田市では、岸和田市男女共同参画推進計画・第3期きしわだ女性プランが策定され、平成23年には「岸和田市男女共同参画推進条例」が制定され施行されました。これは制定してほしいと10何年女性会議から提案してやっとできた条例です。罰則はないけれども、やはり条例があると市もがんばってと言えます。私たちも条例ができたことをすごく嬉しく思っています。もちろん、行政側が制定したのですが、制定までにさまざまな提言をしてきたので、我々の力も大きいと自負しています。

Ⅳ. 広報活動

広報紙「女性かいぎ」の発行

それと、広報活動としての広報紙「女性かいぎ」は最新号が82号で、設立当初から出しています。文字ばかりで難しい読みにくいと言われますが、私たちの活動をしっかりと伝えたいという想いで作るとこうなってしまいます。市からいただいている委託金はすべてこの広報紙になります。他の活動は、会費などで行っています。現在、個人会員は300名弱です。団体会員が20団体。健老大学や社会福祉協議会なども会員です。そして、市職労女性部などさまざまなところが一緒に活動してくださっています。団体の構成人数は数えていないですがかなりの数になると思います。

「かしまし座」一出前します

そしてもうひとつ、広報活動に「かしまし座」があります。身近な日常生活の中にある女性問題を楽しく分かりやすく寸劇やジェンダー川柳などで表現しています。

今年度、校区別人権問題研修会全会場を人権推進課の担当職員と回らせていただきました。そこに来ていただいた方もいらっしやると思います。

DVを寸劇にするというのは、どうしても、暴力のシーンが出てくるので難しいことでした。「かしまし座」のメンバーはもちろんプロではありません。女性会議はネットワークなので、

それぞれの会員は他にいろんな活動をしています。そんな中で集まっているので、なかなか練習の時間もなく、台本も自分たちで考えて作っています。だから、プロの役者さんがするのは確かにきれいだけど、そうじゃなくて失敗もしながらも「かしまし座」という素人の劇がわかりやすかったという評判をかなりいただいたそうです。地域の人に劇に参加してもらったのも好評でした。



DVとは、殴る、蹴るだけではなく、精神的な暴力なども含まれます。最近話題の三船美佳さんのモラハラもDVのひとつだと思います。そして最後に彼と彼女という若い人のデートDV、夫婦でないところで起こるDVの話も取り上げました。

このような活動をしています。また、みなさんよろしくお願いします。

岸和田女性会議

男女平等参画社会の実現をめざして

ホームページアドレス
<http://joseikaigi.web.fc2.com/>

こんな部会があります

福祉部会

介護の問題など岸和田市の福祉施策についての調査・学習

ワーク部会

- わくわく働ける社会をめざす
- 働く環境向上のための学習・調査など

お菓子サロン

古布での作品づくりを通して、作る楽しさ・喜びを共感しあい、古布のすばらしさを伝えていく

女性学サークル

- 身近にあるあらゆる“性”に対する問題・人権の問題を考える
- 女性学講座の企画運営

悠遊・UBAステーション

これからの人生を安心して暮らしていくために、合同募・通言など話し合いながら実現をめざす

サロン・ドゥ・GOMI

- もっとも身近な環境問題であるゴミについて学習し、循環型社会をめざす
- エコキャップの回収など

こんなことをしています

I. 女性問題にかかわる調査・研究・活動

II. 男女平等参画社会実現のための事業

- ①講演会・シンポジウム・研修会等の開催
- ②交流会等の開催
- ③かしましフェスティバル（12月）
- 〜（4）料理・絵画・パズル・文化財〜
- 岸和田市立図書館
- 市議会・議員会との交流
- 事務局等

III. 行政などへの参画と提言

- ①市議会・市議会議員との懇談会
- ②各種審議会・委員会への参画

IV. 広報活動

- ①広報誌「女性かいき」の発行
- ②「かしまし座」の開催

身近な日常生活の中にある女性問題を楽しくわかりやすく、子どもや若者にも理解できるように伝えます。

V. 部会活動

- 福祉部会
- ワーク部会
- お菓子サロン
- 女性学サークル
- 悠遊（UBAステーション）
- サロン・ドゥ・GOMI

《パネリスト紹介》

〔介 護〕

岸和田市介護者家族の会「みずの輪」 代 表 山本 一美 さん

- ☆ 20 歳から看護師として市民病院に就職し 32 年間勤務
- ☆ 岸和田市教育委員会の自主学習グループ「婦人問題」のち「女性と福祉」で学習
- ☆ 女性会議“福祉部”で医療・介護の学習
- ☆ 54 才から社会福祉協議会で 5 年間介護相談業務
- ☆ 社会福祉協議会で介護専門員（ケアマネジャー）の業務に 2 年間従事する
以後民間事業者でパートとしてケアマネジャーの仕事を継続
- ☆ 63 才岸和田健老大学に入学。
- ☆ 67 才から介護者家族の会“みずの輪”へ現在、代表。
- ☆ 70 才 NPO ホットサロン設立、理事として参加。

◇岸和田市介護者家族の会 みずの輪

仲間とともに明るい介護

わかりあえる仲間がいます

「みずの輪」は、介護の不安や、悩みをひとりで抱え込まず、みんなの問題として取りくみ、より充実した介護ができるように、医療・保健・福祉など関係機関の方々の支援を得ながら、さまざま活動を行っています。

集い・「憩いの広場」

◇NPO 法人街角ほっとサロン

困った時はお互い様。遠くの親戚より近くの他人です。
病気の時、怪我をした時など、小さな手伝いがほしい時に、
地域住民がお互いに、できる事を、できる時に、できる範囲で助け合う。
そんな、活動をしています。

また、あなたの周りで、独りぼっちになっている人はいませんか？
気軽に声をかけて、誘ってみてください。

まずは、気軽におしゃべりにおいでください。

介 護 岸和田市介護者家族の会「みずの輪」 代表 山本 一美 さん

介護者家族の会「みずの輪」で活動している山本です。本日、私は介護についてのテーマでお話しする機会をいただきました。すばらしい人生経験をお持ちの皆さんの前で、介護、看護、地域の人達とのふれあいというテーマで、介護者家族の会で活動するに至るまでの半生をお話しするのは少し緊張しますがよろしくお願いいたします。

自主学习グループ「婦人問題」から「女性と福祉」へ そして市民公開講座での気づき

私は看護師として、53歳まで入院患者と関わってきました。よく「専門職ばか」と言われますが、私も37歳ころまで仕事場と自宅を往復するのみで、本当に周りのことに気がまわらず、入院患者の看護をするだけの日々でした。業務を通して「退院後にその患者が自宅でどのような生活をしているのか？」が気になり始めたきっかけは、昭和52年（1977年）に岸和田市立公民館の自主学习グループ「婦人問題」に出会ったことでした。仕事の合間に参加するようになってから、それを意識するようになりました。さらに市民公開講座で婦人問題研究家の樋口恵子さんの講演「80年代の女性の生き方」を聞く機会があって「高齢社会では社会保障問題や家族環境問題がある」ということを知りました。その時「そうだ、やはり入院患者さんは家に帰ってからも、さまざまな生活環境の課題があるのだ！」と思い、もっと視野を広める必要性を痛感しました。

社会福祉協議会で介護相談

冒頭申し上げた通り、私は平成7年（1995年）に53歳で早期退職しましたが、岸和田市から社会福祉協議会福祉センターの中に「介護相談員」を置きたいという要請があり、それを引き受けました。また翌年には社会福祉協議会が事務局となる岸和田市介護者家族の会「みずの輪」（以下、みずの輪）が開設され、介護相談をしながら、皆さん方の活動の仲間に少し関わらせて頂きました。その後、平成9年（1997年）に政府が介護保険制度を平成12年（2000年）から開始するという施策を交付したことに合わせて、自主学习グループのテーマも“女性と福祉”に変わり、社会保障問題も踏まえた学習に取り組みました。

介護相談からケアマネージャーへ

介護相談を続けるためには、介護保険制度のシステムを知る必要があると思い、介護支援専門員（ケアマネージャー）という資格を取得しました。介護相談員という仕事と学習を通して「在宅介護には生活環境や社会保障問題が存在している」ことを知りました。介護者家族が多くの問題を抱えていましたから、関係機関に電話などで教えを請いながら、解決していくことに5年間邁進しました。さらに「介護保険事業計画策定委員」が市民から広く募っていたことも知って委員にもなりました。資格取得を契機に“介護相談”という業務から“ケアマネージャー”の業務に変わりました。

しかしフルタイムでの業務は体力的にきつく、結局2年間で社会福祉協議会を退職する決意をしました。もちろんケアマネージャーを続けて欲しいという要望もあったことから、現在、民間の介護事業所に席をおいて活動しています。しかし日々「本当にこれで良いのか？よりよいサービスを提供していくにはどうしたら良いのか？」を考えていくうち、私たち専門員の仲間の連携が必要ではないか？という考えが芽生えてきました。これを実現するために事業者連絡会を立ち上げ、事業者間の連携と交流を始めました。

「岸和田健老大学」との出会い

そして、また転機がありました。それは病気で苦しんでおられる人たちや介護で大変な思いをしている人たちとお付き合いをしている中で、とても元気に生き生きと過ごしておられる高齢者に出会ったことでした。「どうしてこんなに日々、若々しくなっていくのか？」を感じてみていました。それがお手元の資料にある「岸和田健老大学」での経験でした。私自身、今まで福祉の課題などを学習していましたので、もしかすると、それは“偏った学び”であったのではないかと考えました。

この大学の設立理念は「健やかで美しく豊かで幸せな老い」を挙げています。主体的に老いの意味、生きる意味、生きる楽しさを見つけ生涯学習によって自己実現・自己開発に取り組み心身の健康づくりに役立て、仲間の輪を広げる場として、定年まで、海外で、地域の行政で、教師、銀行員、とさまざまな分野で活躍してきた人達がさまざまな講師による講座を受け、沢山のクラブ活動があり人生終末まで通学できる学校です。元気印の高齢者と知り合い、環境の違った人たちとふれあうことができました。そういう人たちとふれあって私自身も本当になんだか若くなってきたような気がしています。

やはり、人生の中では自身が病気になったり、逆に介護しないといけなくなったり、という境遇に置かれますが、結局のところ、介護相談員としてその人たちの支えになるためには、やはり“元気な人たちとふれあってもらい、その人たちから元気をもらってもらうことが重要なのだ”と思い始めました。

岸和田市介護者家族の会「みずの輪」

ちょうどそんな時、今度は私自身が夫の介護をすることになりました。夫はパーキンソン病という病気にかかり徐々に体力が低下し、介護保険を利用することになりました。仕事と介護の合間を縫って、健老大学に通って過ごしておりました。実際に自分が介護をすることになると、これが本当に大変だなあと実感し、やはり介護についての悩みを共有しお互いに介護負担を軽減することが必要であると考えていきました。

この頃「みずの輪」から役員への就任依頼があり、大変な時期でもありましたがお引き受けしました。社会福祉協議会が事務局となって支援を受けている「みずの輪」は、介護の不安や悩みを独りで抱え込まず、みんなの課題として取り組み、より充実した介護ができることを目指して活動しています。

お手元には、年4回発行している“みずの輪だより”を配布しています。これは役員が独自で作成しており、写真を主にレイアウトすることで、見やすく、読みやすい活動内容をお知らせすることをめざしています。また“集い”は、年に10回開催しています。その中でやはり本人、家族にあった介護サービスの利用方法など、交流で介護の悩みを話しあったりしています。みずの輪も20周年に近づいてきており、その歴史の中で“介護されている方”“看取った方”“老老介護をしている方”など、さまざまな方々がおられます。そういう人たちの憩いの場になればということで“憩いの広場”も開催しています。

介護の悩みの相談や楽しい対話の時間を持てることで「悩みが解消され、気分が晴れて、楽しく過ごせた！」と言ってくれる方々が多くいます。

「みずの輪」のような介護者家族の会というのは、岸和田市のみならず、大阪府下26市町村に存在しています。会員数は大阪府下で1,741人であり、岸和田市では96名という状況です。大阪府下全体で連絡会や活動交流集会を開催し、泉州ブロックを構成する泉大津市、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉南市、阪南市、岬町の皆さんと交流・連携することによって、多くの悩みを共有しています。

一方、私自身、介護保険のケアマネージャーをしている中で、“介護保険を使えない”人たちと交流することもありました。「安心して生活できない！サービス使えなくて困っている！」ということで、自宅に引きこもり、虚弱になっている人たちがおられます。残念ながら、現行の介護保険では、少々の虚弱は“自立”と認定されるため「安心して在宅生活を過ごせない！」という不安の声を聞きます。

NPO 法人街角ほっとサロン

それを少しでも改善させたい思いでNPO法人の「街角ほっとサロン」に関わることにしました。お手元の資料の中にあるように「街角ほっとサロン」というのは、お互いに支え合って、気軽に立ち寄れる楽しく過ごせる集いの場になることを目的にして開設しています。この活動は、社会福祉協議会ボランティア活動特別助成金を得まして平成24年(2012年)にできました。私は理事として参加しています。

このサロンは“地域に開かれた喫茶店”“いろいろな人たちがやりたいことができる場”として、大正琴教室、体操教室、小物作り教室を開いたり、週一回の木曜日に希望者に対して弁当を宅配したり、週一回の土曜日には昼食会を持ったりしています。また地場産野菜の販売をし、月一回は自分たちで居酒屋をして楽しく過ごせる日を持ってもらっています。さらに有償ボランティアという形で、通院支援とか家事援助、買い物同行、お墓回り同行など、地域住民がお互いに助け合う精神を持ち合わせることで介護保険が使えなくても、支援できるサービスをNPO法人「街角ほっとサロン」で行っているのです。

皆さん今、平均寿命は、男性で80.21歳、女性で86.61歳であり、健康寿命は、男性で71.19歳、女性で74.21歳と言われています。つまり不健康な期間は、男性が9年、女性が11年になるというようなデータがあります。この期間において介護が必要になって、介護サービス

を受けたり、人の世話になるわけです。85歳以上の方の4人に1人が認知症になるのではないか？と最近よく言われています。故に、今まで説明してきたことがいかに重要であるかはわかり頂けると思います。

私自身、今年で後期高齢者の仲間入りとなります。そして独居高齢者です。いよいよ、身の回りの面倒を見てもらう年齢になってきました。老後の生活環境を安心して過ごせる地域づくりを皆さん方とともに、これからも考えていきたいと考えています。

住民相互のふれあい、交流を豊かにし、安心して生活できる地域づくり、地域社会で本人や家族が安心して住み慣れた地域で暮らし続けるような岸和田にしていきたいと思っています。これからも、元気印の方々とふれあいながら、介護で悩んでいる方に適切なプランを提供できるように、介護者家族の会「みずの輪」の会員さんが介護の悩みを解消し、気持ちを豊かに過ごせるように、そして「街角ほっとサロン」で地域の人たちがホッとできる集いの場を提供し、困った時の手助けができるように、精進したいと考えています。

私は、看護師、ケアマネージャーという介護支援をする立場と夫の介護という介護者家族の立場の両方を経験したことをもとに「本人や家族が安心して、住み慣れた地域で暮らし続けることができる理想的な社会の実現」のために、生涯を通して知識を高め人と人がつながっていく力を学習していきたいと感じております。

仲間とともに明るい介護

みずの輪

岸和田市介護者家族の会

わかりあえる
仲間がいます



「みずの輪」は、介護の不安や、悩みを、ひとりで抱え込まず、みんなの問題として取りくみ、より充実した介護ができるように、医療・保健・福祉など関係機関の方々の支援を得ながら、さまざまな活動を行っています。

毎月 偶数月 第1木曜日 集い 13時30分～15時30分
奇数月 第1土曜日 福祉総合センター
毎月 第3日曜日 集い「憩いの広場」 大町4丁目1～10

事務局
〒596-0076
岸和田市野田町1-5-5
岸和田市社会福祉協議会内
TEL 072-437-8854
FAX 072-431-1500

入会申込書

NPO法人「街角ほっとサロン」
理事長 久高 進 様

趣旨に賛同し、入会金1000円と年会費、1200円（前期会員は500円）を添えて入会を申し込みます。

正会員・賛助会員（下記に金額を記入）
氏名（敬称名）
（会社員・主婦・自営業・学生・その他）
住所 〒
電話
FAX
Eメール
賛助会費：年額 1口・1000円 団体賛助会員：年額 1口・3000円 （ 口 ） 円
ボランティアなど希望される事があれば、
会員の登録以外の目的には、使用しません。



2012.6.9（土）【はじめての集い】では、国鉄大阪合唱団「号笛」によるミニ演奏会をしました。



NPO法人「街角ほっとサロン」

〒596-0042 岸和田市加守町4-26-3
（岸和田市社会福祉協議会内）西側の住戸の一画
（南海本線から徒歩10分、駐車場はありません）

TEL 072-444-2650
FAX 072-444-2653
Eメール: info@hotta0501.com

街角ほっとサロン

NPO法人

私達と一緒に、自分達の地域の助け合いに参加しませんか？

困った時はお互い様。遠くの親戚より近くの他人です。

病気の時、怪我をした時など、小さな手伝いがほしい時に、地域住民がお互いに、できる事を、できる時に、できる範囲で助け合う。そんな、活動に、あなたの力を貸してください。

また、あなたの周りや、知り合いになつていない人はいませんか？気軽に声をかけて、話してみてください。

まずは、気軽にしゃべりにおいでください。

今、お困りの方、気軽に相談ください。介護相談が、お受けできるスタッフもいます。

NPO法人「街角ほっとサロン」設立しました

理事長 久高 進

私たちの社会は、急速な高齢化社会の進行と核家族の増加等により、手助けを必要とする人びとが多くなりました。

今回、私たちは、互助、共助の基本は、自分達が住む地域にこそあるという基本理念を実現するため、2011年12月、NPO法人「街角ほっとサロン」を設立し、2012年5月に、登記しました。

NPO法人として信頼性を高め、活動を広げたいと、決意しています。

皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



「街角ほっとサロン」の目的

この法人は、地域の高齢者、障がい者などに対して在宅生活の支援事業・福祉事業などによる送迎の支援事業・地域での交流事業を行うことにより、住民相互のふれあい、交流を豊かにし、安心して生活できる地域社会づくりに寄与することを目的とします。

当館はこんな活動をします

- 1 街角ふれあいサロン**
手作り作品展示販売・休憩所
水曜日～土曜日
Am 10時～Pm 4時
散歩の途中、通院の帰りにも、気軽に、ひと休みしてください。
- 2 歌謡喫茶やコンサート**
第一回目は、「号笛」によるミニ演奏会でした。



食事会の飲み物は持ち込み自由です。

古布が、ブローチなどの小物に

おしゃべり食事会
（水）と（金）は、夕食会：PM6:30～
（木）と（土）は、昼食会：PM0:00～
参加費は、500円です。
（限定10人なので、必ずお電話でご予約下さい）

こんな活動も準備中です

- 3 健康体操教室や学習会なども・・・**
ただ今、準備中ですよ。もう少しまってね。
- 4 福祉有償運送**
ただ今、準備中ですよ。もう少しまってね。
一人で出かけるのが大変になったらお助けします。
- 5 有償ボランティア活動**
あちらこちらに、自由にのびのびと。
（ただ今、準備中ですよ。もう少しまってね）
ボランティア希望者も募集しています。
あなたのお力を、お貸し下さい。





パネルディスカッション

◇ コーディネーター 大阪市立大学 非常勤講師 竹村 安子 さん

みなさんこんにちは。今日、1月24日は私、誕生日なんです。みなさんに、祝ってもらえたので、今年は幸せだなあって、感じてございます。今日は、みなさんに、いろんなお話をいただきまして、これからの暮らしをあるいは学びをみなさんと一緒に考えていこうという会でございます。

早速、進めていきたいと思います。それでは、最初にここから Kit 代表の長谷川さんよろしく願いいたします。

— それぞれの発表 —

〔子ども〕長谷川 秀美さんの発表後

◇ 竹村先生：今、全国的にも、子育てサロン、子育てサークルという活動が非常に盛んになってきている。これはなぜかな。実は私、今日で67歳になりました。この中にも同じような年代の方がいらっしやいますね。

私達の子ども時代に子育てサロンってあったらどうか、あるいは子育てサークルってあったかなとふりかえりますとありませんでした。なかったけれども、地域の中で中学生くらいまで、いろいろな年代の子どもたちが一緒に遊んでいるという風景がありました。そして、家に帰って、母親がいなかったら隣の家にいき、そこでおやつももらって、ご飯も食べて家に帰りました。それが普通の暮らしでした。そして家の中や外では、母親同士が井戸端会議をしていたり、お年寄りがお茶を飲んでおしゃべりをしていたりと。そういうものは今、私たちの身近にあるのでしょうか。なくなっています。

実は、高齢者の方々のサロンも非常に盛んになってきているのですけれども、こういうつながりの場が子育ての場でも求められてきているということです。子育てサロン、あるいは子育てサークルなどの活動が盛んになってきている。いま子育てが、特にお母さん、親御さんだけの責任になっている。私は三人姉妹で、育ってきて物心がついてから、いろいろな世話をしてくれたことを思い出すと、お姉ちゃんが世話をしてくれたなど。母親は忙しくて、下の子の世話をしたりとか家族の食事のことだとかの準備はしてくれていたのですが、近所の子に泣かされたらお姉ちゃんが助けに来てくれたりとかがありました。それが、今はお母さん達の責任に全部なっている。子どもは遊びに行っておいでと言っても、危なくて一人では出せない。私たちの時には、友達同士で公園に遊びにいったりできた。

その中で、どのようにつながりをつくっていくのか。これは、お母さん同士、親同士のつながりだけではなく、子ども達の成長にどれだけ影響が出てくるのか。これが必ず出てくるのではないかなと思います。今、拝見させていただきますと、学校へ行かれる前の子どもさんが中心でしょうか？

◇ 長谷川さん：乳幼児をもつお母さんたちです。

◇ 竹村先生：学校へ行かれる方は、来ておられないという感じですね？

◇ 長谷川さん：今のところは。今は、いつでも誰でも来てくださいと、土曜日を開設しています。今後、学童さんとかもとやっといこうかなと思っているのですけれども。やはり地域で活動したいです。

◇ 竹村先生：学校行くようになりますと、子どもたち、こういうサロンには来なくなるのですが、土曜日に行く場がない。反対に土曜日に来てもらっているというお話がありましたけど、大阪市内にもこのようなサロンがありまして、昼間は乳幼児の方が来られる。夕方になりますと、学校帰りの子どもたちが来て、そこでトランプなどをやっているのです。そこで、宿題をして帰る。それを教えるのが、学校の先生をしておられて今、地域で子育てサロンに関わっておられる人や、そこでジュニアリーダーをしていた子どもが大学生になって子ども達に教えたりしている。人のつながりが年代をこえて、つながっている。そんなになったら面白そうですね。

特に、今日、会場を見渡すと男性が多い。今「育じじ」という言葉をご存じですか？これ、非常に盛んになってきているのですね。おじいさんが育児に参加する。おばあさんは嫌でも参加している方は多いのですけれども、実は60歳を過ぎた男性がさまざまな子育てに参画していく。これが、「育じじ」と言われたりしている。ある地方自治体ですけど、65歳以上で仕事を辞めた方を嘱託などで採用して、保育所に1、2人配置しているのです。子育ては、女性を中心になりがちなのですが、お父さんは仕事が忙しくて、なかなか子育てに関われない。男性のいない子育てというのが、子どもの成長にとって大きな問題となる。そこで「育じじ」という制度を作られまして、高齢の男性の方が、子育てに関わってもらう。こんなところもあります。ぜひ、関わってもらったらいいいということで、よろしくお願いします。

〔女 性〕 貝塚 眞知子さんの発表後

◇ 竹村先生：女性問題これは、日本が特に終戦後に女性の人権ということで、さまざまな活動が取り組まれてきた。でも、日本の女性の参画というのは、世界からみると非常に低いのですね。この差は何なのか。

大阪市内の「クレオ大阪」という男女参画施設がありまして、少し関わっているのですが、さまざまな先生方とお話をしていた時に、女性問題はイコール男性問題である。生き方や男女共同参画ということであれば男性も一緒に考えていく必要があるのではないかと。日本では、男性は働く者、女性は家庭にということが、古い習慣でずっと続いてきた。これから、超高齢社会になっていきます。介護など女性が抱えている課題は男性の課題にもなります。

そのメンバーの中で面白い先生がいらっしゃいます。以前、大阪大学にいらっしゃった先生ですけど「夫源病」とあるのです。「夫が原因の病気」です。夫が定年退職をして、ずっと家にいらっしゃる。その時に女性に起こってくる、ある種のうつ病みたいな種類の病気ですね。そして、いろいろと原因を聞いてみると、夫がずっと家にいることによるストレスということにな

った。ところが、もう一方で、この夫さんもストレスを受けている。夫さんもいくところがない。何をしたらいいか分からない、ここに来ておられる方は、ものすごく元気で、そういう病気は関係ないと思います。もちろん、奥さんも非常に喜んでいてと思います。

だけど、この女性問題・男性問題、今後より考えていかなければならない問題ではないかなと思います。そしてもう一方で、若い人たちの中ではデートDVという話が出ましたけれど、これが非常に問題になってきている。男性も非常に大きなストレスを抱えている中で、さまざまな問題が起こってきているという実態があります。これらを、多角的に考えていくということが今、必要なかなとお話を聞きながら感じました。

〔介 護〕 山本 一美さんの発表後

- ◇ 竹村先生：山本さんの話を聞きながら、私もそうですが、母親が 92 歳で要介護 5。二年ほど前に施設に入所しましたけれど、十数年間、家で看ていました。姉と二人で看ていたのですが、とても、よく転ぶのです。どうしようもなくなった時に、たまたまショートステイで通っていた施設で、季節の変わり目で何人かが亡くなられ、お部屋が空いたからということで、要介護 5 と最高でしたので入居いたしました。でも、今でも言うのです。「なんで私はこんなところにいてるん？家に帰りたい」「あんたらは、私を捨てるんか」こんなことを言われる。そうかと言って、受け入れているところもだんだん出てきているのですが、やはり子どもとして辛いものがありますね。

これが、住み慣れたところの施設であったとしても、行きやすく、顔馴染みの人が来てくれてというふうな暮らしが出来ないかなと私もそんなことを思っています。

今、福島区でサロンだけではなく地域の関係団体にも入っていただき、そういうものをやりたいと思っています。実は、今晚 6 時から地域の新年会があり、そこへ行って、またそのことの PR をしてきます。

網の目のようにさまざまなつながりがないと暮らせないというのが実情です。そのあたりのお話と山本さんが経験してこられたことを、また今の想いをお話いただきました。

何か質問がありましたら、2 つくらい受けまして、お答えしていきたいと思います。どなたに質問したいのかということ、これだけは言っておきたいとか、お願いしたいと思います。

どなたに対しての質問かということをおっしゃってくださいね。

- ◇ 会 場：長谷川さんに一つお伺いしたいのですが、こういう場が欲しいというのは、たくさん要望があると思うのですが、その場は、お聞きしたら、岸和田駅の近くの便利なところですね。その家賃や手当というのは、どうされているのか。利用される方から会費みたいなのを徴収しているのかどうかをお聞かせいただきたいのでお願いします。

- ◇ 竹村先生：活動しようにも、場の確保が一番問題だと。これは介護にも通じるとは思うのですが、まず長谷川さんの方からどのようにその場を確保なさって、家賃などを払っているのだった

ら、どう払っているのか。ちょっとお話いただければ。

◇ 長谷川さん：とても切実なお話です。私にしたら、上の方(山手)に行けば場所はいっぱいあるのですね。でも、山手には子育て支援センターがふたつあります。でも、浜手にはないので、ずっと以前からこの辺りにもほしいなという思いがありました。たまたま、旧れもん館のショウルームがあった場所ですけれども、親子劇場さんが事務所として使っていたのですね。それで、「クラルテ」という人形劇をされている先生がいらっしやいまして、れもん館のオーナーと仲が良く、子どもたちの集まる場にしてほしいという提案をしたところ、たまたま月に一度「ころころカフェ」という、お母さんがケーキを手作りしたりコーヒー飲んだりする場所を提供していたのですね。その時の費用は1回いくらか安かったのですが、とりあえず事務局として、そこでお部屋を借りようと思ったときに、やはり自分たちはまだお金がもらえるところがないのですね。賛助金を集めたりしました。またお母さんたちには、初めに登録料として500円いただいています。そして、1回につき300円という負担をしていただいています。それだけでは、全然足りません。だから、今のところ手弁当でそして自分たちで、ちょっと持ち出しというのをしながら、おいおいいろいろなところにご寄付とかお願いをしながら、法人会員や企業の方々にご賛同いただいて活動していきたいなと思っています。どうぞご協力よろしくお願いします。

◇ 竹村先生：ご協力のほどよろしくお願いいたします。山本さんは、ほっとサロンというのはどう場所を確保して、どのように支払しているのか。

◇ 山本さん：「街中ほっとサロン」は自宅を開放されています。そこは母さんの介護を終えられて、1階をみなさんの集いの場に、2階には手作りの作品などを展示しております。お母さんを見取ったご家族が理事長をしていただいておりますので、無償で提供されていますので家賃などは発生しておりません。

◇ 竹村先生：発生していないということですね。いま空き家が、結構増えてきています。子どもさんたちは、東京だとかよそへ行かれて、家だけが残っている。その家をほっておきますと誰も風をいれないので、シロアリなどの問題が出てきて、そういうところへ働きかけてというようなこともできる。「街中ほっとサロン」はたまたま、お母さんが亡くなられて、それに関わっておられて無償で貸すということになったのだと思います。

大阪市内は家賃が高いので、私は、11坪の小さい長屋ですが、家賃を毎月払うのがあまりにもきつかったので、アベノミクスの前で、不動産の価格が下がっていたので購入しました。購入して、そこをリノベーションいたしまして、サロンにしています。

今、住んでいる福島区にサロンが広がってきているのですが、その形は、マンションの集会所でサロンを開設する。これは、地域のマンションの方でさえ、人間関係があまりないという

現状があります。だから、サロンを開設することによって、つながりを作っていくという活動が生まれました。あと、住み開きという形です。そこで、住みながら、一室を提供する。

ある方は、家が古くなってきて、ちょっと補修工事をしないといけない。その時に、その補修工事とともに、その玄関入ったところのお部屋をそのままサロンが出来るようにバリアフリーになさって、そのまま入れるようにして、今、月4回サロンしておられます。

また、ある方は、ガレージだったところをサロンにされている。そして、要介護5のお母さんと要介護2のお父さんもその月4回されるサロンに参加されている。そこはもともとパン屋さんをしていて、昔なじみの方々がそこへ集われているという、こんな例があったりします。ひとつは、サロンをどこですか。公民館でやっていく、あるいは、どこかのその会館でやっていく、これもひとつです。大阪市内は地域の福祉会館、集会所が多いですね。これらは、ほぼ喫茶サロンやっています。これを広げていくというのを仕事としてやってきました。

でも、それだけでは私は足りないと思っております。今、NPOの方々、常設サロンをしていくということと、もっと身近なところで反対に普通の家だからこそ、集えるという良さ、この「街角ほっとサロン」なんかそうですね。こういうところでしていくと、自分の生活、自分のその家をいかに開放していくのか。こんなことも考えられるのではないかなと思います。反対に、山本さん、おひとりになられて、独居だと言っておられましたね。ご自分の家を開放したら、見守ってもらえますよ。

他に、ご質問ございませんか？

◇ 会 場：パネリスト皆さんに質問です。自分たちは、主旨もあって意欲もあって、高齢になっても鞭打って活動しているのはわかるのですが、その意志を次につなぐ、後継者のことをどこまで考えていますか。

◇ 長谷川さん：私たちもそろそろ年なので、やはり若いおかあさんたちを巻き込んでやっていきたい。だから、今さきほどもお話したように子育てサポーターの方や、自分はこれができるよとか、最近のおかあさんたち、いろんな特技を持っています。その特技を活かせる場を提供するなどして、主体的に関わっていけるようにしています。私たちがやっていることをみて、自分も参加したいと思えるような場にもしたいし、工夫はしていきたいと思います。やはり今、私達は、乳幼児のお母さんを巻き込んでいきたいと思います。そして、地域の方々も巻き込んでいきたいと思っています。

◇ 貝塚さん：女性会議は、私が若手と言われるくらいで、それが課題です。だけど、この時代なので先ほどのデートDVなど、そういうところから若い人にアタックして、若い会員を増やしていきたいと思っています。男性会員も大歓迎です。若いとは限りませんのでみなさん、募集用紙も入っていますので、女性会議に入ってください。

- ◇ 山本さん：「みずの輪」は介護を終わられた方たちばかりなので後継者が課題です。みなさまにお願いがあります。「みずの輪」の会員さんになっていただいき、是非ともご参加よろしく願います。ほとんどの方が、介護経験があるか、また今後の介護に不安をお持ちの方は沢山おられると思います。是非ともご参加よろしく願います。
- ◇ 竹村先生：かなり、みなさん参加要請がありましたね。後継者をみつけるポイントですね。ひとつは、はっきり言いますと、今のリーダーがやりすぎない、がんばりすぎないこと。これです。非常にがんばっておりますと、実は、後継者はみつかりません。それは「私にはそこまでできない」と思われて、次の後継者のなり手がみつからない。今、もうすでに、がんばっておられるのでしたら、今やっている仕事を分散して、役割分担をする。それぞれ分担できるような体制をつくることで、後継者をみつけていくようにしないと難しいです。今、十数年前から広がったサロンも、いくつか潰れているところがあります。それがなぜかといいますとがんばりすぎた。「あんなしんどいことようせんわ」というところがあります。そのあたりを参考にして、是非いい後継者を探していただけたらと思います。
- 最後に3人の方から一言ずつ、どうぞ。
- ◇ 山本さん：「みずの輪」の活動をあまり広報しなかったので、そちらにリフレッシュ行事をしたときの写真が貼っております。「みずの輪の会員」というのは、認知症の人の介護という形で、とても悩んでおられる方がたくさんおられます。その人達が、安心して介護していただくためには、介護者の家族だけではなく、小さなうちから、小学校の子どもたちに認知症のことを知っていただくということで、活動しております。子ども達に認知症の理解してもらうことはとても大事だと思っております。地域で安心して過ごせる町づくりをみなさんも一緒にお願いしたいと思います。
- ◇ 竹村先生：地域で安心して暮らせるまちづくりをみんなで作ませんかというこういうお話でした。ありがとうございます。是非、また帰りや休憩時間に、パネルや写真をみていただけたらと思います。
- ◇ 貝塚さん：女性会議も後ろにパネルがあるので、是非ご覧ください。
- ◇ 長谷川さん：地域でみなさんと一緒にやっていきたいと思っておりますので、私の顔をみたらお声がけください。よろしくお願いします。

第2部

—基調講演—



竹村 安子さん 大阪市立大学非常勤講師

【プロフィール】昭和 23 年 大阪市生まれ。

昭和45年より大阪市社会福祉協議会に勤め、小地域社会福祉活動やふれあい型高齢者の食事サービスなどの地域福祉活動やボランティア活動・NPO活動の推進などの業務を担当していた。

現在、港区長アドバイザー、大阪宅老所グループハウス連絡会世話人。

平成25年4月 大阪市福島区にてコミュニティサロン「えび庵」を立ち上げ主宰。

【主な著書】

『福祉ボランティア』（共著 朱鷺書房）

『福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO』（共著 中央法規）

『小地域福祉活動の新時代 大阪市・今川地域からの発信』（共著 銚子コミュニティサポートセンター）ほか

【基調講演】 支えあい 学びあう 暮らしを

大阪市立大学 非常勤講師 竹 村 安 子 さん

1. 暮らしと密接な生活課題
災害 犯罪 環境問題 衛生問題 学校教育・社会教育・生涯学習
子育て 福祉問題（高齢者 障がい者 子どもたち 青少年 その他）
男女共同参画 国際交流・多文化共生 文化 その他
2. 今、なぜ市民活動や地域活動が求められているのか
少子高齢社会を迎える 人間関係の希薄化
豊かな生き方を求めて QOL（生活の質）を上げていくために
誰もが住みよい町（社会）・ノーマライゼーション社会・共生社会を実現していくため
3. 活動の機能と意味
孤独・孤立化の防止
生活問題の早期発見・早期対応
被援助者の社会性の回復と社会参加、生活圏拡充
すみよい環境づくり
サービスのネットワークづくりとサービス開発
多文化共生のまちづくり
セーフティネット
住民の参加と学習機会
4. 今までの地域の既存組織
自治会・町会、民生委員児童委員、女性団体協議会、老人クラブ、青少年指導員
会、子ども会、保護司、体育厚生協会などなど
5. 新しい活動形態
血縁・地縁から結縁・知縁へ
広がっている居場所（サロン・コミュニティカフェ・住み開き）活動や支えあい活動など
6. 居場所って何…
家から外へ出る場（閉じこもり防止、社会参加のワンステップ）
地域の安心拠点、地域福祉拠点
交流・活動・相談・ケアの拠点
7. 子育てサロンの場合
 - (1) ミッション
① 親と子の育ちを支援 — 子ども中心のプログラム
親を中心とする（親のリフレッシュを含む）プログラム
② 活動者・支援者の自己育ち
③ まちづくり
 - (2) こどもたち、親たちにとっての子育てサロンの意味
① 親と子がいろいろな人たちと出会う場
② 自宅ではないサロンの空間
③ サロンの事業やプログラムとの出会い
④ サロンを支える人・組織との出会い
 - (3) 親子（子育て）サロン活動の効果
① 親にとっての効果
子育てを共感しあえる仲間や相談者ができる
子育てにかかわる不安や問題を解消・解決できる
子どもとの一対一の関係から離れることにより、リフレッシュするとともに自

分の子育てを客観化できる

親としての成長、主体性を育てることや自己実現を図ることがきる

地域社会において「場」「居場所」ができる

②子どもにとっての効果

同年齢の子どもだけでなく異年齢の子供との交流や集団環境になれることができる

多様な遊びが体験できる

親との安定的な関係をつくれる

親でない大人とのふれあい・交流ができる

地域社会の中で「場」「居場所」ができる

③地域にとっての効果

異世代交流・地域の交流の拠点となる

若い世代（サロンに参加する親）との接点となり、地域活動の啓発・参加をよびかけられる

活動を通して住民の声が聞け、地域の現状や課題が分かる

地域活動の拡充や新しいボランティアの養成を図ることができる

地域のコミュニティ力や福祉力が育っていき、住みよい町づくりが推進できる

(4) サロンの運営のポイント

①親や子の興味や関心にあわせて自由に

②親だけの時間も（母子分離） — コーヒータイムなど

③参加している親子のサロンからの卒業 — 自主運営のサロンも

④スタッフの負担が大きくなるように

⑤社会資源・地域資源の活用も — 高齢者や小・中・高校生等との交流も

⑥地域の各種団体等とのネットワーク

⑦専門家・専門機関施設とのネットワーク

8. 高齢者サロンの場合

(1) 居場所の効果

①つながりづくり、仲間づくり

②心の健康づくり

③身体の健康づくり

④情報をうけとる

9. 活動が生まれ、育ち、広がっていくために…

PDS をやってみよう

P（プラン — 計画） D（ドウ — 実行） S（シー — 振り返り）

10. 住民・市民が望んでいる社会・地域社会

安心して安全に 自分らしく 生き生き暮らせる 社会・地域社会

誰もが あ・い・う・え・お で暮らせるように

あ 会いたい人がいる

い 行きたい場所がある

う 生まれてきてよかったなあーと思う時がある

え 笑顔がいっぱいある

お お互いの違いを尊重し合える

そして、「おたがいさま」といえる人と人のつながりがある

11. 支えあい 学びあう 暮らしを

そして、活動を通じて人づくり、そして社会・地域づくりを

基調講演 大阪市立大学非常勤講師 竹村 安子 さん

昭和 45 年に大阪市社会福祉協議会に就職いたしました。大阪市は政令指定都市です。今、橋本市長がこれを五つの区に分けようという話をしています。大阪市は 24 区があり、社会福祉協議会（以下、社協）も、当時は区役所の係員の方が担当しており、いろいろな事業が大阪市より大阪市社協に委託されていました。ですから、一時期 1,800 人くらい社協の職員がいたのではないのでしょうか。その中で、老人福祉センター、勤労青少年ホーム、児童館、子育ての相談センター、情報センター、いろんな分野があるのですが、私は異動せずに、どこの課長さんも私がうるさいから嫌がりはったんかな?!と思っているのですけどね、地域だとか住民の方々だとか、ずっと市民に関わることを仕事として続けてきました。

介護・女性・地域（子育て）

そして、母親が倒れました。ちょうど、介護保険も動きだして、社協の内部の会議となりますと、介護保険に委託事業は対応できるのか等という話ばかりの時期でした。最終、委託事業の方向ではなく「大阪市の何とかしてもらおう」ということになりました。ちょうどそんな頃、母親も倒れたこともあり早期に退職いたしました。退職してからも、いろいろな地域の活動だとか NPO の方々と関わってきたわけです。

孤独・孤立していく社会

その中で、やはりひとつは、私自身もそうですけれども、全体的にさまざまな人たちが孤立してきているということを感じるのです。「私は友達いっぱいいるし、そんなことないわ」と思われている方もあるかと思います。でも、今はそうであったとしても、そのことを大事に継続させていく努力をしなければ、孤立していきます。

私の母は今、施設で暮らしています。78 歳のとき脳梗塞で倒れました。それから、リハビリ訓練に通い、いろいろなことをしながら、だんだんと悪くなってきました。

当時、地域の大阪市福島区の海老江東に住んでいました。この地域では、集会所で喫茶サロンを開いていました。そのサロンへ母を連れて、月に 2 回、たこ焼きやカレーライス、時には、お茶を飲んでおぜんざい食べて、そして知っている人達とお話する。これを母は非常に楽しみにしていました。

ところがある日、母が「もう、行かへんわ」と言い出しました。「なんで？」と聞くと「知っている人いてへんもん」と言います。86 歳くらいの時ですかね。母の友達だった方々が亡くなれたり、あるいは入院なさったり、あるいは子どもさんのところへ引き取られたりして、母の友達がなくなったのです。誰と話をしたらいいかわからない。話し相手は、連れていく私たち子ども、姉か私です。それでは家にいるのと変わらない「そんなもん、もう行くの嫌や」と言い出しまして、行かなくなってしまったのです。そのまま、ほっておくとだんだんつながりがなくなっていってしまう。

これが、今の高齢者の生活ではないかなと思います。そして、いま高齢者だけではなく、子どもたちも、若いお母さんたちも、あるいは青年たちも、同じような状況であると思います。

暮らしと密接な生活課題

では、私たちは今なぜ、こんな暮らしになってしまったのだろうか。ふりかってみますと、私たちは、経済的に豊かになってきました。私たちが子どものころは、コンビニもなく、家には冷蔵庫もなかった。毎日、市場に行って買い物をしておかずを作る。醤油がなくなる、お砂糖がきれますと、隣近所に借りに行った。こういう生活でした。

でも、コンビニができ、スーパーマーケットは11時あるいは12時までやっている。すると、そんなこと必要なくなってきたわけです。非常に便利になってきました。便利になっていく中で、人とつながる必要性がなくなっていくわけです。しかも家の中は、エアコンがあつて、暖かいし、涼しい。外で、夕涼みする必要もない。さまざまな環境の変化の中、あるいは仕事の関係でどこかへ行ってしまうということもあり、だんだんと人と人がつながることがなくなっていったわけです。

そして、気が付いたときには、地域のつながりは非常に薄くなり、そして家族のつながり、これも薄くなっていく。家族も、子どもさんは東京へ行ってしまってそこでお孫さんもでき、こちらには帰ってこない。最近、こんな方のお家を民家型の託老所、デイサービスとサロンという形にしたというのがあります。このままでほっておくと孤立していく状態が私たちの暮らしの中で当たり前になっていく。そうしたことがあるのです。

住民参加と学習機会

それでは、そうではないところはあるのか。私は、先ほど言いましたとおり、いくつかの地域だとかNPOとかに関わっています。

プログラムにも紹介いただきました大阪市東住吉区今川という地域で、私が33歳くらいから関わっています。この地域との関わりはモデル地区ということで2年間だけでしたけれども、私はその中で、福祉に関わる活動と活動者を残したいと思ったのです。それはなぜかという、その研究会とか勉強会だけでは、これはモデル地区事業が終わったらなくなってしまう。実践として、そこで活動する人を作っていきたいという思いで、この地域で一人暮らしの高齢者の食事サービス、週に2回ですけれども始めていきました。その活動者の勉強会にも出ました。4回の講座をし、そして、活動をすることの意義だとか、現場に見学に行き、懇談会を何度もやってきました。そして、モデル地区事業は終わりました。ところが、この地区は、私を離してくれなかったのです。非常に人をうまく使うのです。このことは、みなさんが活動する時のひとつのポイントです。いかに人を使うのか。役所の人や社協の人。こういう人といかにつながって、いかに相談を持ち掛けていくか。そうしますと、いろいろなメリットが出てきます。そこで相談して対応できなくても、そこから別の人に相談してもらうことが可能になるのです。ぜひ、実践していただけたらと思います。実は、今もその地域とずっと関わっています。

生活問題の発見と対応

そして35、6年くらい関わってきたこの地域では、まず人口が今1万2,000人くらいですが、その1割の高齢者の方々の見守りをしておられます。70歳以上のひとり暮らしの高齢者。75歳以上の高齢者世帯。75歳以上のお昼間ひとり暮らしとなる高齢者。必要であれば障害のある方とか、あるいは子どもさんのい

らっしゃるご家庭に関わっています。月に1回以上は、声をかけましょう。こうしたことをされています。声をかけるのも、いちいちそのお家に行くのではなくて、道で会った時に声をかけて「お元気ですか？この頃、どうしてはりますか？」という話をする。駅で会った時、いろいろな時に声をかける。それが実はつながりになっていくわけです。つながりになっていきまして、そしてごく当たり前のように何かあった時には、相談できるという体制ができています。助け合いのグループも、作られました。介護保険のない時には、とても大活躍をいたしました。目の不自由な方の買い物の手助けや、入院しているひとり暮らしの高齢者の方の手助けです。入院すると、実は洗濯は、家族がしないといけない、その家族がいない、家族のかわりに、ボランティアの方が毎週行かれて、洗濯物を持ってこられてお話し相手になられる。そして、最後は看取られ、お葬式まであげられたというこんなケースがあります。そのように、つながっているからこそ、その方の状況もわかり、さまざまな手助けができるようになるのです。

新しい活動形態 血縁・地縁から結縁・知縁へ

この地域でおもしろい話があります。ある時、担当のボランティアさんが、96歳のひとり暮らしのおばあちゃんに呼ばれた。そのおばあちゃん曰く、何を相談したのかと言いますと「私の友達、みんな死んでもうた、寂しい。私の友達探してくれ。」これを相談されました。すると96歳の同じ年代の方というのはいらっやいません、そこで、その地域の方は、それならば趣味の合う82歳と78歳の方、この方たちはどうかということでお会いしていただきまして、お見合いですね、そしてお友達になられた。こんな相談、みなさんできますか。しかし、ここではそれができたのです。

また、要介護1になられたひとり暮らしの高齢者の方がおられました。ヘルパーさんも来て介護もしてくれ、おうちも掃除してくれます。それならば生活ができていと思うのです。ところがその方はいつも安楽椅子に座っていて、少しずつずれてくる、そしてずれ落ちてしまう。落ちてしまいますと、その方は、自力で立ち上がれない、動けない。うちの母親もそうでしたね、立ち上がれない。するとその方は、何をするのかと言いますと、胸に下がったペンダントを押さえます。そうしますと、まず、最初の担当のボランティアさんに電話がいきます。その方がいないと、その町会のボランティア部長のところへ電話がいきます。そして、その方もいなかったら、町会の女性部長のところへ連絡がいきます。だいたい3人くらいまわると、だいたいどなたかにつながる。そうしますと、3人の方が鍵を持っています。「あ〜、また、こけはったか、ずり落ちはったなあ」ということで、その3人のうちのどなたかが鍵を持ってその家に行きます。そして、少し介助してあげますと、また座れる。これが2日か3日おきです。ヘルパーさんには、来てもらえないけど、近隣だったら誰かが来てくれる。そういう関係があるからこそ、その方はひとりでも暮らせる、こういう地域です。

支えあい 学びあう 暮らしを

この地域のもうひとつの特徴は、36年間、2年に1回、必ずスクールを開きます。地域で4回講座を開催される。その時に問題になっている課題をずっと学び続けています。ですから、活動が次から次へといろいろな方向に発展をしていきます。昨年ちょうど、その講座開催の時期によられました。内容は、新し

い介護保険、ご存知かと思いますが平成 29 年度には、介護保険の内容が変わり、要支援の方がデイサービスとホームヘルプサービスの利用ができなくなる。要介護でないと利用できないようになります。それでは要支援の方はどうなるのか。「地域の中で助け合いなさい」あるいは「自治体が、その有償によるサービスを立ち上げて、そして助け合いなさい」そして「デイサービスなどには行かずに、サロンに行きなさい」国の方向としては、町会に1か所ぐらいサロンをつくってください、というようなことを打ち出している。この平成 29 年度といえども、自治体によっていつするかわからない。今、大阪府に聞きますと、来年度は1市がやるのではないかと話していました。でも最終の平成 29 年度までにはどの市町村も実施しなければならない。このことは介護保険の法律で決まってしまう。私は一体どうなるのかと思っています。

しかし、この地域では早速、勉強会をやりました。そして地域で何をすべきか、何をしたらいいのか。以前、介護保険が始まる前には有償サービスをやっていた。これをもう一度、勉強しよう。介護保険制度の勉強から、有償サービスの勉強から、そして、自分たちこれからどうしていくのかということ。このように地域課題の勉強と先駆的な地域の見学ということをしています。これを2年ごとに繰り返してきていました。だから、この地域は活動が広がっていくのです。支え合いながら、その中から学び合っていく。これからの課題を、自ら学び合いながら、地域の中で実践していく。この地域では、さまざまな人たち、あらゆる専門家の人たちに相談します。

被援助者の社会性の回復と社会参加、生活圏拡充

この地域である高齢者の方のことが問題になりました。その方は、心の病がありました。これは、私たちだけでは対応ができない。関わっていく中で、さまざまなサービス、お手伝いをしながら、もっとこの方の生活を考えるためにはどうしようか。そして、保健師さん、精神保健福祉士さんをよびました。そして、地域にある精神障害者の作業所の指導員にも来てもらいました。かかりつけのお医者さんにも来てもらいました。そして、ボランティアが入り、そして地元の町会長が入って、その方のこれからの生活、その方のよりよい生活をしていくために、どうしたらいいのかという話し合いをしました。お姉さんにも来てもらいました。お姉さんは、最初信用してはりませんでした。その高齢の方は、最近この地域に移ってきた方でした。「そんなことやってくれるところがあるかいな」最初、お姉さんは半分けんかごでした。でも、いろいろなことを何度も話し合う中で「弟のことをここまで考えていただければいいと思いませんでした。よろしくお願いします。」と言われて、和歌山に帰られました。

その方は、今地域のその作業所に通いながら、お昼ご飯はその作業所で食べます。朝はパンなどを買ってきてもらってご自分で食べます。夜は、ご自分で買いに行ったり、行きたくない時には、ボランティアの人に頼んで買ってもらう、あるいは、生活支援型の食事サービスを届けてもらっています。特に、土曜・日曜日は作業所がありません。その時は、地域の高齢者サロンに出てこられたりします。ここでは、地域の喫茶サロンも週3回やっています。そして、別に、高齢者が中心となって高齢者によるサロンを作っています。そこで、自分たちも楽しみながら、そこでいろいろな助け合いもできたらいいなと思っておられます。

高齢者サロン つながりづくり、仲間づくり

その高齢者サロンを会館ではなく、もっと身近に集まれるような普通の家でできたらいいな、場所をどうしようかという動きの中で、今、出てきているのは、住み開きです。自宅を開放して、そしてそこにみんな来てもらってというのですが、みんなといいまして自宅ですから、そんなに大勢集まりません。せいぜい 5~6 人くらいです。近隣の顔見知りの関係の人たちが、そこでお互い気遣いしあうような関係になるということです。

活動が生まれ、育ち、広がっていくために

私が福祉活動を長年やってきて感じているのは、まず挨拶運動、声かけ運動とか、見守りましようというのがあります。私は、見守りは見守りで終わる、声かけは声かけで終わる。そこから、もう一步踏み出す必要があると思います。それは「人と人とのつながりがそこで生まれるような仕掛けが必要である」ということです。それは何かといいますと、何度かお会いしますと「お元気ですか?」「この頃、いかがですか?」と、その方の個人的な情報が分からなければ、個人的な関わりは生まれないということです。これを、いかにどこで自然につくっていくのか。これが非常にこれから重要になるのではないかなと思います。

支えあい 学びあう 暮らしを

みなさんは、これまで生涯学習のさまざまな学びをされています。私は、大阪市生涯学習センターにも関わっているのですが、そこで学んだものを、実践に活かし、そしてまた学ぶということ。これからはっきり感じていますのは、自分が本当に安心して安全に住めるようにそんな地域をつくっていこうと思ったら学ばないとできない。それは、先ほど、山本さんもおっしゃいましたね。

私は今、地域の中でいろいろ発信しています。たまたま、こんな仕事を長年してきましたから、さまざまな地域のことや NPO での取り組みを知っています。そうしますと、それをバーンと押し付けるような形でいうと反発がでます。そうではなくて、さまざまな活動の中で、こんなことがありますよ、あんなことがあるのですよというふうに、一住民の立場で関わっています。学び合う中で、私は地域が変わってほしいし、反対に変わっていくサポートが出来たらいいなと思っています。

今、私の住んでいる地域で、新しい活動を生み出そうという動きも出てきています。だから、今日は急いで 6 時には新年会にホテル阪神に行きます。

この学び中で、大切なのはこれからの社会がどうなっていくのか。あるいは、どういう制度があり、制度がどう変わっていくのか。女性会議で制度のことも勉強しておられます、長谷川さんのところでも、制度を勉強しておられます。

介護保険は 2000 年に出来ましたが、厚生労働省がはっきり言いました、大盤振る舞いでした。ものすごく最初は使いやすかったのです。次第に使いにくくなっていきました。それはなぜか、これから利用する人が増えてきます。今でもパンク状態だからです。これからもっと厳しくなっていきます。

そうしますと、どういうふうになっていくのかということを学んでいかないと、不安だけが先立ちます。高齢期に向かっていったら、なんか暗いな、なんか嫌やだな、そんな気持ちになります。しかし私は、この高齢期を楽しもうと思っています。自分が、社協の職員でいて出来なかったことを、それを地域で実践

していきたい。自分が最後に出来なければ、いけるところをきちんと予約しています。若い事務局長を、ちょっと面倒みていまして、今から言っています。「行くところなくて、70歳すぎてあかんようになったら、あんたとこいくから、ちゃんと面倒みてや」と言いながら活動しています。そういう、学びと支え合うということ、これがセットにならなければならないということです。

私たちの暮らしの中で、学び合う、あるいは交流し合う、親睦するということですかね、つながり合う。そういう活動が非常に盛んだったのが昭和30年代です。戦争が終わり、女性会などの前身である婦人会、あるいは老人クラブ、こども会、青少年の健全育成ですね。青少年指導員あるいは自治会、町会活動が一斉に生まれてきました。そして昭和40年代になってきますと、この中で外れてしまう、漏れてしまう問題が出てきた。ひとり暮らしの高齢者の問題。老人クラブに入られないなど、これまでの既存の地域組織から外れてしまう高齢者です。

活動を通じてひとづくり、社会・地域づくりを

そして、今はもっともっとシビアな問題がある。孤立しているニートの若者の問題があります。ニートで若者だったらまだいい。ニートで40、50歳という人もいます。こうした課題はどうするのか。もう、いろんな問題が、この孤独な状態、孤立しているところから生まれてきているということ。それに対して地域社会も問われています。あるいは、一人ひとりの生活自体が私は問われていると思います。

先ほど、山本さんに言いました。ご自分の自宅でサロンをしたら見守ってもらえますよ。反対に、来る人たちが「今日は、サロンをしてない。なんでやろう。」こんな気遣いをしてくれる。自分の生活の中で気遣いしてくれる。自分のことを気にしてくれる人をどれだけ作っていくのか。これは、若いおかあさんたちもそうです。子どもさんの調子が悪い。あるいは、最近、ちょっとあのお母さんも減入っているようだ。そしたら、そこでどう気遣いしてくれるのか。こういう相手をいかにつくっていくのか。これをつくっていくためには場が必要です。その場をどこでつくっていくのかということが、これからの地域、あるいはサークル、さまざまな団体、それぞれに問われていくのではないかなと、そんな感じを受けています。

あまり、レジメに沿わなかったかもしれませんが最後になります。

住民・市民が望んでいる社会・地域社会

私の想いは、「あいうえお」です。心身が不自由になっても「あいうえお」のある生活をしよう。

あ、会いたい人がいる。

い、行きたい場所がある。

う、生まれてきてよかったなあという思いがある、喜びがあるということですね。

え、笑顔がいっぱいある。

お、お互いの違いを尊重しあう関係がある。そして、お互いさまと言える関係がある。

こんなことが実現できたらいいなと思ってます。ちょうど、4時2分前になりました。あとは、閉会の挨拶でいけるのでないかと思いますので、ここでお話を終わらせていただきたいと思います。

—資料編—

平成 26 年度
「いきいき市民のつどい」アンケート

1. あなたの性別 (男 ・ 女) 年齢 () 歳代
2. この「つどい」は、平成 10 年度にはじめて開催されてから今回で 17 回目となりますが、あなたは通算して何回目の参加になりますか？
A. 初めて B. 2 回～4 回 C. 5 回以上
3. 参加回数が、2 回以上の方にお聞きします。
今回、パネルディスカッションと基調講演を組み合わせたシンポジウム形式での開催でしたが、従前の、市内の活動団体による発表及び分科会形式と比べ、どうでしたか？
A. よかった B. ふつう C. よくなかった D. 特に何も感じない
その他ご意見 ()
4. パネルディスカッション及び基調講演はどうでしたか？
・【パネルディスカッション】
A. よかった B. ふつう C. よくなかった D. 特に何も感じない
その他ご意見 ()
・【基調講演】
A. よかった B. ふつう C. よくなかった D. 特に何も感じない
その他ご意見 ()
5. 基調講演等、希望されるテーマ等がございましたらご記入ください。
()
6. この「つどい」についてのご意見、ご感想等があればなんでもお書きください。
()
7. 「生涯学習」という言葉にどのような印象をお持ちですか？
(※「生涯学習」とは一般に、各人が自発的意思により、必要に応じ、自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行うものといわれています。)
8. どのような生涯学習活動に取り組んでいますか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。
A. 趣味的なもの B. スポーツ、レクリエーション C. 家庭生活に役立つもの D. 健康
E. パソコン、インターネット F. 福祉 G. 環境 H. ボランティア I. 育児、教育
J. 語学 K. リサイクル L. 自然体験、アウトドア M. 社会問題
N. その他 ()
9. 生涯学習をしていて、困ったことがありますか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。
A. 時間のやりくり B. 費用がかかる C. 施設が遠い D. 情報が分からない
E. 施設が使いにくい F. 場所がとれない G. 利用手続きや講座の申し込みが面倒
H. 仲間がいない I. 周りの理解がない J. きっかけがつかめない
K. その他 ()
10. 今回のこの「つどい」を何でお知りになりましたか？
A. 市の広報（ホームページ） B. 情報紙（市の広報以外） C. チラシ・ポスター
D. 知人などの紹介 E. 所属団体の動員要請
F. その他 ()

平成26年度
『いきいき市民のつどい』
アンケート集計結果

平成27年1月

◆ 参加者人のうち、109人からアンケートの提出がありました。

Q1 あなたの性別、年齢

男：37人 女：72人 年代無回答：1人 性別無回答：0人 合計：109人

性別 年代	男	女	無回答	合計
10歳代	0	0	0	0
20歳代	1	1	0	2
30歳代	0	5	0	5
40歳代	4	14	0	18
50歳代	7	12	0	19
60歳代	7	20	0	27
70歳代	16	18	0	34
80歳代	2	1	0	3
無回答	0	1	0	1
合計	37	72	0	109

Q2 この「つどい」は、平成10年度に「年輪のつどい」として開催されてから今回で16回目になりますが、あなたは通算して何回目の参加になりますか？

(109人 回答)

A. 初めて 36人 B. 2回～4回 38人 C. 5回以上 35人

Q 3 参加回数が、2 回以上の方にお聞きします。

今回、パネルディスカッションと基調講演を組み合わせたシンポジウム形式での開催でしたが、従前の市内の活動団体による発表及び分科会形式と比べ、どうでしたか？

(74 人 回答)

A. よかった 46 人 B. ふつう 21 人 C. よくなかった 2 人

D. 特に何も感じない 3 人 その他意見 2 人

(回答なし 35 人)

その他の意見 (6 人)

- ・ お話ばかりになるので簡潔に進めることと、休憩を間に欲しく思います。(40 代女性)
- ・ パネルディスカッションにはなっていないように思いました。順番が逆でも良かったのでは？(40 代女性)
- ・ 竹村先生の進行が良かった(60 代女性)
- ・ それぞれの特長があるので内容によります
- ・ どちらがいい悪いはとは言えない。(60 代女性)
- ・ 以前の方が個々の意見が聞けていいと思う(50 代男性)
- ・ パネルディスカッションについて何もかわってないように思う(60 代男性)

Q 4 パネルディスカッション及び基調講演はどうでしたか？

【パネルディスカッション】(103 人 回答)

A. よかった 61 人 B. ふつう 32 人 C. よくなかった 4 人

D. 特に何も感じない 6 人 (回答なし 6 人)

その他の意見 (15 人)

- ・ 分かり易くて良かったが、最後は少し PR 合戦になったような気がします(30 代男性)
- ・ それぞれの方の発表は良かったのですがパネルディスカッションにするならもっとテーマをしぼった方がディスカッションには良かったのではないかと思います(40 代女性)
- ・ 少し実技講習みたいな時間を取るのも必要と思いました(40 代女性)
- ・ 経験済、参加者はもうすでに終了しているよ！(60 代女性)
- ・ パネルディスカッションなのでパネリストとフロアの意見交換があった方がいいと思いました。生涯学習の学びをどうまちづくりにつなげるかパネリストの話からもう少し深く掘り下げほしかったです(60 代女性)
- ・ 一人ひとりの発表の後、講師の話があって良かった。会場からのいい質問が出た(60 代女性)
- ・ もう少しコンパクトに(60 代女性)
- ・ 各パネリストの発表は良かったと思いますが、あまりパネルディスカッションにならなかったのでは。(60 代女性)
- ・ 民生委員さんも参加なさって、お話を聞きたかった(70 代女性)
- ・ それぞれの発表者の発表が良く解り良かった(70 代女性)

- ・ 経営・継続の視点に欠けている。構成も進行も善意に寄っており、企画・点検が不足している。心に届かない、届きにくい構成（６０代男性）
- ・ 少し全てを話そうとしすぎ、要点中心に（７０代男性）
- ・ 少ししゃべるのが早いので聞きとりにくかった（７０代男性）
- ・ コーディネーターとパネリストの意見交換が現実にとってわかりやすかった（７０代男性）
- ・ 女性問題中心の話で聞いていて役立つと思った事は何もない（７０代男性）

【基調講演】（９２人 回答）

- A. よかった ７０人 B. ふつう ２０人 C. よくなかった １人
D. 特に何も感じない １人 (回答なし １７人)

その他の意見（９人）

- ・ まだ介護について身近に考えられていないから（３０代女性）
- ・ マイクの不具合が気になりました（４０代女性）
- ・ 居場所作りの大切さをあらためて感じました（５０代女性）
- ・ わかりやすくまとめていただいた（６０代女性）
- ・ はっきり、聞きやすい（６０代女性）
- ・ 「女性の部分」にあまりふれられていませんでした（６０代女性）
- ・ わかりやすく実行したいと思いました（７０代女性）
- ・ 具体で、実体験をもとに聞いている側に沿った講演で、つき動かされるエネルギーを感じることが出来た。出合いを創ってくれたボランティアセンターのＡさんに感謝（６０代男性）
- ・ 切実な問題で考えさせられた。当市は祭礼があるので隣近所の付き合いは他市と比べて良いと思うが、最近ではそれも薄れて来ているように感じる（７０代男性）

Q 5 基調講演等、希望されるテーマ等がございましたらご記入ください。

（１３人 回答）

- ・ 子育て（３０代女性）
- ・ 不登校や、ひきこもり、対人関係があまりうまくない人のこれからの将来について（４０代女性）
- ・ ノーマライゼーションについて詳細に。地域包括支援センターの役割について知りたい（４０代女性）
- ・ 認知症問題（４０代女性） ・ 脳活（認知症予防）（５０代女性）
- ・ 子どもの虐待など（５０代女性）
- ・ 年金生活者の参加者が多いので、費用がかからず、気軽に参加できる催しを！（６０代女性）
- ・ 介護職のプロの方にアドバイスを。小・中学校の現状（３０代女性）

- ・ やはり、今日のように身近なテーマを取り上げて頂けたらと思います（７０代女性）
- ・ 孤独死について（７０代女性）
- ・ ボランティア活動している人の孤立、負担を軽減していくヒントになるもの（４０代男性）
- ・ 健康寿命を少しでも長くするための健康法と食事の方法（７０代男性）
- ・ 共助組織のあり方（７０代男性）

Q 6 この「つどい」についてのご意見、ご感想があればお書きください。

（３９人 回答）

- ・ パネリスト長い（女性）
- ・ 自分の知らないところで色々な活動をしていることを知れ、聞いていて楽しかったです（３０代女性）
- ・ 分科会形式で地域にどんな活動をしているどんな人がいると顔を知れる方がいいかもしれない。もっとたくさんの人の話を聞きたい（３０代女性）
- ・ 竹村先生がとてもあたたかくてステキでした（３０代女性）
- ・ 各代表の主にしているものはそれぞれ違うが、求めているところに当てはまる「居場所」を設立し、活動しているという共通点があり、そこからつながる人の輪を大切にしておられた。最後には大きな“輪”になるはず。参加できて良かった（４０代女性）
- ・ 時間がオーバーと言われているにもかかわらず、お話しすぎと思いました。代表３名が焦っている様子はもったいないと感じました。基調講演の時間にしっかりお話をしてくださるといいなと感じました。（４０代女性）
- ・ もっと若い人向けのテーマがいいと思います。若い時に学ぶと年をとった時に有効だから（４０代女性）
- ・ 山本一美さんのお話が具体的でよくわかりました。（４０代女性）
- ・ 第２部の空調の音も気になりました。基調講演が第１部ではなく、２部というのがめずらしく思いました、時間調整しやすいですね（４０代女性）
- ・ 広報きしわだ１２月号で見たあと、市のＨＰを何度も探したのですが、ちらしがＵＰされていません。市民に開かれた催しになっていないと思います（５０代女性）
- ・ パネルディスカッションでのパネリストの話はとてもわかりやすくてよかった。竹村先生のお話が少し短くて残念です（５０代女性）
- ・ とてもなごやかで良かったと思います（５０代女性）
- ・ このような場に参加すると学びの場の多さに驚かされてしまいます。今自分が行っている他に何を学ぶべきか、多すぎて選べないのが今日の感想です（５０代女性）
- ・ すてきな会でした参加して良かったです（５０代女性）
- ・ 今日のテーマの柱となっているものは、女性の課題として押しつけられるようなものですが、多く男性に聞いて頂けて大変良かったと思いました。（５０代女性）
- ・ 身近なテーマで分かり良い内容でとても良かったです。（６０代女性）
- ・ 第２部の基調講演は、基調講演とネーミングであるなら第１部に行ってほしいです。竹村先生のお話はまとめではないか？（６０代女性）

- ・ 40年前の「たんぽぽ」出身者です。子育てサークルを活動していました。自分達で何もかも養成していたよ！その頃にサークルを運営していたよ、ただ資金面で運営していくのにできなかった。市を頼らず自分達で運営したかった。わたちの会も参加したよ！子育て、女性問題は知らない（60代女性）
- ・ マイクが良いのか、悪いのか、声が大きくなったり小さくなったり、話は良いのですが聞きづらかった。早く気がついてほしい（60代女性）
- ・ 色々な情報を教えてくださる機会は別な方法が良いと思います。つどいはあまり欲ばらずに、「介護施設の現状」「社会教育の現状」「子育て世代の交流の場へ参加方法」等テーマをできたらひとつにしてほしい。（60代女性）
- ・ 休憩の時間をとるのはよくないのでしょうか？帰ってしまうきっかけになる？「第1部」「第2部」とくぎるのはよくないかもしれませんね（60代女性）
- ・ 自分自身も後期高齢者になるため興味深かった、何もかも人の世話になろうと思わず自立するよう、日頃健康に留意している（70代女性）
- ・ 子育て、介護、女性、コーディネーター、どうして全部女性なんですか？男性の考え方も聞きたいですね、基調講演もっと聞きたかった。前半は時間が多すぎた!!（70代女性）
- ・ つどいの回数を増やしてください、勉強になります（70代女性）
- ・ 時間配分をしっかりとすべき、話す内容を事前に整理し、時間を決めて話す必要があります、今後の出席率にひびきます（40代男性）
- ・ 地域活動が活発になっていくことを切に望みます（40代男性）
- ・ グループ会議を取り入れたらいいと思う（40代男性）
- ・ パネルディスカッションはディスカッションになっていたかどうか基調講演は何の基調になったのか、ふつうは逆ではないのか（60代男性）
- ・ 岸和田の方針を明確に具体的に個別にまで細分化し、ピンポイントでおまかせシンポでなく、企画・構成をしっかりとした市民をどこへつれていくのか意志をみせてほしい。選択されるかどうかでなく、無難につどうのではなく方向性をみせてほしい。（60代男性）
- ・ 高齢者の家族のある者にとって大変参考になりました。（60代男性）
- ・ 初めての参加、まさしく生涯の問題について区分しての話で良かったです。子ども・子育てのことも聞けて良かったです。（70代男性）
- ・ 女性だけでなく男性のパネリストを入れるとまた違う考え方があるのが参考になると思う。（70代男性）
- ・ みんなそれぞれに活動しているのがすばらしい。（70代男性）
- ・ いろいろな形で発展させてほしい。（70代男性）
- ・ 男女平等・参画の言葉が何度か発信されましたが、女性中心の内容で退屈でした。（70代男性）
- ・ 市議に女性が少ないとか、三船さんの離婚について話されたパネリストがいたが日本の女性が男性より表に出ていないことが悪いと思っていない。日本の女性は強い。日本では女性が表にでなくても、家庭で男性を操っているのです。また、ある日子どもを連れて出て行かれた父の悲しさが女性にはわかっていない。女性からの目で見ただけでなく、男性の立場を考慮した講演が良い。（70代男性）

- ・ 女性の活躍（子育て・介護・家事・パート）なくして今後の世の中は明るく元気にならない。人は必要とされることを必要とする。（70代男性）
- ・ 毎年続いているので継続して行ってください。（70代男性）
- ・ 相互意見交換ができる方式で進めてほしい。（70代男性）

Q 7 「生涯学習」という言葉にどのような印象をお持ちですか？

（39人 回答）

- ・ 難しい、かたい。（30代女性）
- ・ した方がいいこと（30代女性）
- ・ 何か学びたい、興味があることに對して、一生、積極的に関わっていける場所（40代女性）
- ・ 人生を豊かに過ごす方法（40代女性）
- ・ 生涯学ぶというイメージです（40代女性）
- ・ 個人の主体性により、人生をより豊かに生活していくものである（40代女性）
- ・ 生きることは学ぶこと（40代女性）
- ・ 一生涯を通して向上していく（40代女性）
- ・ 趣味・生きがいから仕事能力向上、福祉、地域づくり、社会（市民）活動まで大変幅広い（50代女性）
- ・ 自分自身が生涯自分らしく生きられるよう学び続ける（50代女性）
- ・ 必要なものだと思う。（50代女性）
- ・ 意欲的な人生（50代女性）
- ・ 「生涯学習」ということで、何か参加して学ぶというのも1つの選択だと思うが、一生学ぶという姿勢で毎日の日々を送っておられる方も多いと思う。（50代女性）
- ・ いつまでも学びあう!!（60代女性）
- ・ すでに実行中です。ある意味卒業したよ！（60代女性）
- ・ 自ら学びたいことを生涯にわたって学ぶこと。方法はそれぞれが自由に選んで豊かにくらせるために学ぶ。（60代女性）
- ・ 1つは、カルチャーセンターなどの個の学び。もう1つは自主的なグループでの学び。（60代女性）
- ・ これで終わりと思ったところで進歩がない、生涯努力することで、生きがいのある人生になる（60代女性）
- ・ 学んだことを行動にうつす。むつかしいことだと思いながら聞きました。（60代女性）
- ・ リタイアした人が元気を保つために何かするというイメージ。（60代女性）
- ・ 気になっていたが今一歩ふみだせなかったが、講演を聞き、生涯学習してみる事にしたいと思います。（70代女性）
- ・ 生まれて死に至るまでが人間としての学習だと思います。学び続けることではないでしょうか。（70代女性）
- ・ 生涯にわたり、生き活きと元気に、豊かに生活できるように時々渡り学ぶこと（70代女性）

- ・ 齢を経ると共に必要な学習内容が違ふ。その期にあった学習をする必要がある。
(70代女性)
- ・ 生涯学習…読んで字のごとしで年齢にあったテーマでずっと学習する(70代女性)
- ・ まだ楽しむ場所がある元気をいただける元気を喜びがあること(70代女性)
- ・ 人と人との出会いの場でもあります。(40代男性)
- ・ 「自発的意思」というものの概念を整理する必要があるかなと思います。(40代男性)
- ・ 死ぬまで学習し成長する(40代男性)
- ・ 10歳より始めた趣味を現在も続けています。友達も趣味 家の中でも長年続けている人ばかりが生涯勉強です。(60代男性)
- ・ 生活に役立つ自己興味の点検に基づいて、計画的に確実に実利的ノウハウを取得する。
そして実践すること(60代男性)
- ・ 自分の一生について考える機会となりました、認識を深めました。(70代男性)
- ・ 学習という言葉でなく信条とが趣味とかいう方がよい(70代男性)
- ・ 一生勉強と思っている。人間は死の寸前まで成長・発展する(70代男性)
- ・ 最初は表現の意味がわかりにくかった。(70代男性)
- ・ 健康寿命に心掛けて生涯学習を楽しむこと(70代男性)
- ・ ゆっくり一生自分のため人のために役立つことを学ぶ(70代男性)
- ・ いい文言です(70代男性)
- ・ 定年退職以後死亡するまでの生涯としての勉強と考えております(80代男性)

Q8 どのような生涯学習活動に取り組んでいますか？(重複回答あり)

(回答なし 17人)

A	趣味的なもの	38人
B	スポーツ、レクリエーション	23人
C	家庭生活に役立つもの	9人
D	健康	13人
E	パソコン、インターネット	15人
F	福祉	21人
G	環境	5人
H	ボランティア	40人
I	育児、教育	15人
J	語学	2人
K	リサイクル	1人
L	自然体験、アウトドア	5人
M	社会問題	9人
N	その他	1人

その他（５人）

- ・ 子育て支援（５０代女性）
- ・ 女性問題（７０代女性）
- ・ 国家資格（４０代男性）
- ・ 読書（６０代男性）
- ・ 医学的に療法士として活動しています（８０代男性）

Q 9 生涯学習をしていて、困ったことがありますか？（重複回答あり）

（回答なし４７人）

A	時間のやりくりに苦労する	40 人
B	費用がかかる	17 人
C	施設が遠い	6 人
D	情報が分からない	8 人
E	施設が使いにくい	8 人
F	場所がとれない	2 人
G	利用手続きや講座の申し込みが面倒	2 人
H	仲間がいない	3 人
I	周りの理解がない	5 人
J	きっかけがつかめない	6 人
K	その他	3 人

その他（８人）

- ・ 車など駐車場にお金がかかる（女性）
- ・ 定員の確保が難しい（３０代女性）
- ・ 続けることの難しさ（４０代女性）
- ・ 頑張りすぎないこと、教訓（６０代女性）
- ・ 公民館に市民や学びや人を育てることへの理解や意欲がない（６０代女性）
- ・ 一部の公民館で学習の一環であるお茶などの使用を制限する施設がある（６０代女性）
- ・ あれこれとやりすぎをセーブしなければならない（７０代男性）
- ・ 申し込んでも空きがないので入会できない、特にパソコン教室など（７０代男性）

Q10 今回のこの「つどい」を何でお知りになりましたか？（重複回答あり）
（回答なし 7人）

A	市の広報（ホームページ）	8 件
B	情報紙（市の広報以外）	2 件
C	チラシ・ポスター	11 件
D	知人などの紹介	12 件
E	所属団体の動員要請	63 件
F	その他	14 件

その他（3人）

- ・毎年参加しています（40代女性）
- ・健老大学（70代女性）
- ・ボランティアセンターのボランティアサロンで紹介された。（60代男性）

平成 26 年度 第 17 回 いきいき市民のつどい

■ 参加者 163 名

保育・手話通訳等申込なし

第 17 回 いきいき市民のつどい 記録集

発行・編集：岸和田市教育委員会生涯学習部生涯学習課

所在地：〒596－0072

大阪府岸和田市堺町 1 番 1 号岸和田市立公民館内

電話 072-423-9616(直通)

発行年月：平成 27 年 3 月



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

岸和田市生涯学習推進本部は、生涯学習のまちづくりを市民ぐるみで推進するために設けられ、委員は次の各団体から選出されています。

岸和田市 PTA 協議会、岸和田市こども会育成連絡協議会、岸和田市文化協会、  
岸和田市体育協会、岸和田市学級・グループ連絡会、岸和田市社会福祉協議会、  
岸和田市民生委員児童委員協議会、岸和田障害者・児関係団体連絡協議会、  
岸和田市人権協会、岸和田女性会議、岸和田市医師会、岸和田商工会議所、  
岸和田市町会連合会、岸和田市中学校校長会、岸和田市議会、学識経験者、  
岸和田市、岸和田市教育委員会 （順不同）